

2019年度 全国ルール統一研修会 (2020年度競技会に向けて)

期 日：2020年2月8日(土)・9日(日)

会 場：パナソニックリゾート大阪

主 催：(公社)日本ホッケー協会 技術委員会

共 催：(一社)ホッケージャパンリーグ



資 料



競技強化支援助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター

目 次

日 程	1
参加者一覧	2
ルール研修 1	3
・アンチドーピングに関する問題について	
ルール研修 2	4
・2019年度 大会の反省	
ルール研修 3	5
・2019年度大会における規則適用状況について	
・2020年度規則書・レギュレーションについて〔説明〕	
ルール研修 4	11
・競技運営規程・競技役員規程の改訂について	
・その他規程類について	
通 知 1	44
・選手・役員の登録（カード発行を含む）について	
・2020年度の登録規程について	
通 知 2	51
・オリンピック進捗状況について	
・インドアホッケーについて	
通 知 3	60
・施設用具関係について	
① ハンドブックについて	
② 競技フィールドについて	
質問要望事項に関する回答及び質疑応答	62
参考資料	66

2019年度 全国ルール統一研修会 日程

(2020年度に向けてのルール研修会)

1. 日時 2020年2月8日(土)13:00～9日(日)11:45
2. 場所 パナソニックリゾート大阪
3. 講師 真喜代司 (技術委員会委員長)
千野 雅人 (技術委員会副委員長)
今庄 充世 (技術委員会副委員長)
平尾 豊 (競技部長)
藤村 利道 (審判部長)
馬場 治男 (総務部長)
安枝 和子 (審判部副部長)
清水 恭子 (競技部アンチドーピング課長)
森 義彦 (競技部施設用具課長)
近藤 聡史 (総務部副部長)
中村 康夫 (技術委員会アドバイザー/専務理事)
※研修会記録・会場設営・受付・その他準備……技術委員会 委員

4. 日程

時 間		内 容		講師 及び 担当者
2月8日(土)				
(時刻)	(所要時間)	《司会進行…安枝 和子》		
13:00	13:05	0時間05分	開会行事 ・(公社)日本ホッケー協会 あいさつ	専務理事:中村 康夫
13:05	13:20	0時間15分	・技術委員長 あいさつ 東京オリンピックに向けて	技術委員長:真喜代司
13:20	13:40	0時間20分	ルール研修 1 ・アンチドーピングに関する問題について [2019年度のアンチドーピング規程変更点を中心に]	アンチドーピング課長:清水 恭子
13:40	13:50	0時間10分	ルール研修 2 [2019年度大会の反省と課題]	技術副委員長:今庄 充世 審判部長:藤村 利道
	休憩	10分		
14:00	14:45	0時間45分	ルール研修 3 2019年度大会における規則適用状況について 2020年度規則書・レギュレーションについて[説明]	競技部長:平尾 豊
14:45	15:45	1時間00分	ルール研修 4 [競技運営規程・競技役員規程の改訂について] [その他規程類について]	総務部副部長:近藤 聡史
	休憩	15分		
16:00	16:30	0時間30分	通知 1 選手・役員の登録(カード発行を含む)について 2020年度の登録規程について	総務部長:馬場 治男 技術副委員長:千野 雅人
16:30	17:10	0時間40分	通知 2 [オリンピック進捗状況について] [インドアホッケーについて]	オリンピック推進室長:近藤 聡史
17:10	17:30	0時間20分	質疑応答	講師全員
19:00	(予定)		夕食	
2月9日(日)				
《司会進行…馬場 治男》				
9:00	9:20	0時間20分	通知 3 ・施設用具関係について ① ハンドブックについて ② 競技フィールドについて	施設用具課長:森 義彦
9:20	10:20	1時間00分	・質問要望事項に関する回答及び質疑応答	講師全員
	休憩	10分		
10:30	11:10	0時間40分	・ ルール研修 5 [2020年度の競技会に向けて] 映像視聴による規則適用の確認	技術副委員長:千野 雅人
11:10	11:30	0時間20分	・質疑応答 [講習会全般について]	
11:30			閉会行事 ・(公社)日本ホッケー協会 ・技術委員会委員長あいさつ	技術委員長:真喜代司

参加者一覧

No.	参加者氏名	参加者所属	No.	参加者氏名	参加者所属
1	沼田 秀樹	HJL所属チーム(小矢部RED OX)	56	戸塚 洋介	A級審判員
2	坪 通徳	HJL所属チーム(法政大学)	57	元宗 宏寿	A級審判員
3	久我 晃広	HJL所属チーム(駿河台大学LADYBIRDS)	58	相馬知恵子	A級審判員
4	為国 壮	HJL所属チーム(福井クラブ)	59	児玉 茂樹	A級審判員
5	山田 雅哉	HJL所属チーム(立命館ホリーズ)	60	細川 祐司	A級審判員
6	藤島 弘介	HJL所属チーム(ALDER飯能)	61	安岡裕美子	A級審判員
7	上澤 祐斗	HJL所属チーム(表示灯フラーテル)	62	渡邊 道彦	A級審判員
8	永井 祐司	HJL所属チーム(ソニーHC BRAVIA Ladies)	63	野澤 達	A級審判員
9	長谷部謙二	HJL所属チーム(天理大学)	64	木下 英貴	A級審判員
10	田中 香帆	HJL所属チーム(天理大学)	65	伊藤 幸子	A級審判員
11	松 郁実	HJL所属チーム(山梨学院CROWNING GLORIES)	66	氏家 健太	A級審判員
12	井上 晃希	HJL所属チーム(山梨学院OCTOBER EAGLES)	67	加藤 直美	技術委員長推薦者
13	寺本 祐治	HJL所属チーム(山梨学院OCTOBER EAGLES)	68	松原 久	技術委員長推薦者
14	森 司	HJL所属チーム(福井工業大学)	69	藤井 明子	技術委員長推薦者
15	小澤 和幸	HJL所属チーム(GSK Orange United)	70	斎藤 靖	技術委員長推薦者
16	関根由美子	HJL所属チーム(GSK Orange United)	71	佐竹由加里	技術委員長推薦者
17	宮崎 奈美	HJL所属チーム(聖泉大学女子ホッケーチーム)	72	古崎 竜司	技術委員長推薦者
18	松村 誠	HJL所属チーム(立命館ホリーズ男子(HJL H1))	73	安木 貴子	技術委員長推薦者
19	坂本 実	HJL所属チーム(駿河台大学男子ホッケー部)	74	堀江 紀之	技術委員長推薦者
20	井上 優大	HJL所属チーム(駿河台大学男子ホッケー部)	75	中野 典子	技術委員長推薦者
21	安部 隆史	HJL所属チーム(Selrio島根)	76	湯澤 健人	技術委員長推薦者
22	石原 宏樹	HJL所属チーム(Selrio島根)	77	加藤 拓馬	技術委員長推薦者
23	黒川 大地	HJL所属チーム(天理大学)	78	稲元 南	技術委員長推薦者
24	藤原 千里	HJL所属チーム(天理大学)	79	竹内 芳郎	技術委員長推薦者
25	片山 謙一	HJL所属チーム(東京農業大学)	80	菊池 玲子	技術委員長推薦者
26	吉田 一男	HJL所属チーム(東京農業大学)	81	高野 禎	技術委員長推薦者
27	古賀 明子	HJL所属チーム(コカ・コーラレッドスパークス)	82	尾木 典隆	技術委員長推薦者
28	大田 昭子	HJL所属チーム(コカ・コーラレッドスパークス)	83	大和田康一	技術委員長推薦者
29	福田 敏昭	HJL所属チーム(LIEBE栃木)	84	小林 哲也	技術委員長推薦者
30	小林 和典	HJL所属チーム(東海学院大学), 強化本部	85	栗原 崇	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
31	中村 真理	強化本部(強化本部)	86	和田千恵子	技術委員会委員
32	田中 剛志	株式会社Majestic Plan	87	苅谷 和代	技術委員会委員
33	岸 洋平	株式会社アストロ	88	松下 正寿	技術委員会委員
34	松村 満	326株式会社	89	竹内 高広	技術委員会委員
35	柿崎 幸男	アシストインターナショナル株式会社プロジェクト事業部	90	高橋 英行	研修会準備担当
36	倉田 隼輝	積水樹脂株式会社	91	清水 恭子	講師
37	濱本 剛	積水樹脂株式会社	92	近藤 聡史	講師
38	久保 克敏	中学校校会事務局	93	安枝 和子	講師
39	八張 慎	高体連	94	森 義彦	講師
40	杉原 広	東北ブロック競技長	95	馬場 治男	講師
41	渡邊 希一	東海ブロック競技長	96	藤村 利道	講師
42	柴田 稔	北信越ブロック競技長代理	97	平尾 豊	講師
43	西松 孝治	近畿ブロック競技長	98	今庄 充世	講師
44	三好 健一	四国ブロック競技長	99	千野 雅人	講師
45	一ノ瀬元史	九州ブロック競技長、技術委員会委員	100	真 喜代司	技術委員長
46	渡辺 健一	北海道ブロック審判長、高体連事務局	101	中村 康夫	JHA
47	鈴木 茂明	東北ブロック審判長	102	坂本 幼樹	JHA
48	宮川 敏充	北信越ブロック審判長	103	福島 雄裕	HJL
49	小原 直也	近畿ブロック審判長	104		
50	藤原真由美	中国ブロック審判長	105		
51	柳田 敏行	四国ブロック審判長	106		
52	富山 喜正	九州ブロック審判長	107		
53	成田 健一	A級審判員、関東学連担当	108		
54	藤原 信幸	A級審判員、東海学連担当	109		
55	壽山 由樹	A級審判員、関西学連担当	110		

アンチ・ドーピングについて

1. アンチ・ドーピングの目的とルール
2. 日頃から注意しよう
3. 自身で考え、判断しよう
4. Q&A

2. 日頃から注意しよう

体内に摂取するものはすべて「アスリートの責任」
 禁止物質・方法を使用した場合、
 意図的かどうかに関わらず違反となる
 飲料の管理や薬を服用する前の確認はできているか？

禁止されている物質・方法とは？
 「禁止表国際基準」で禁止物質・方法が定められている
 全世界・全スポーツ共通
 少なくとも1年に1回（毎年1月1日）更新

1. アンチ・ドーピングの目的とルール

ドーピングとは？
 競技力を高めるために、
 禁止されている物質や方法を使用したり、
 それらの仕様を隠したりする行為

ドーピングが禁止されている理由

1. フェアプレーの精神に反する
2. アスリートの健康を害する
3. 反社会的行為である

3. 自身で考え、判断しよう

アスリート自身でリスクを回避

こんなとき
どうする？

遠征先で体調を崩してしまった！

A
 我慢して
 具合で治す

B
 病院で医師の
 診察を受ける

C
 近くの薬局で
 薬を購入

10のアンチ・ドーピング規則違反

- 1 採取した尿や血液に禁止物質が存在すること
- 2 禁止物質・禁止方法の使用または使用を企てること
- 3 ドーピング検査を拒否または遅延すること
- 4 ドーピング・コントロールを妨害または妨害しようとする事
- 5 原場所情報関連の職務を果たさないこと
- 6 正当な理由なく禁止物質・禁止方法を持っていること
- 7 禁止物質・禁止方法を不正に取引し、入手しようとする事
- 8 アスリートに対して禁止物質・禁止方法を使用または使用を企てること
- 9 アンチ・ドーピング規則違反を手伝い、促し、共謀し、関与すること
- 10 アンチ・ドーピング規則違反に関与していた人とスポーツの場で関係を持つこと

病院で診察を受ける前

1 病院で医師の診察を受ける

2 医師が処方した薬は必ず処方箋を提示し、処方された薬のみを使用する

病院で診察を受けるとき

禁止物質・禁止方法を使用せずに治療可能だろうか？

可能 / 不可能

禁止物質・方法を使わないと治療できないとき

TUE申請

◆ 申請書 ①と申請先 ②を確認

◆ 医師と書類を準備

薬局で薬を購入するとき

近くの薬局で薬を購入

薬師へ行く前にやるべきこと

スポーツファーマシスト がある薬局を購入

フェアであるからこそ生まれるスポーツの価値

チームワーク

楽しみ
献身

勇気
健康

優れた競技能力
ルールの尊重

倫理観
喜び

「みんながフェアであること」によって
 スポーツが成り立ち、価値が生まれる

4. Q&A

JADA（日本アンチ・ドーピング協会）公式サイト よくあるご質問のページの紹介
<https://www.playtruejapan.org/faq/>

- 一部抜粋
- Q.** サプリメントでアンチ・ドーピングのルール違反となる場合がありますか？
- A.** サプリメントが原因だと考えられるアンチ・ドーピングのルール違反が、海外、国内においても発生しています。
- Q.** 風邪の時はどうしたらよいですか？
- A.** 禁止物質を含まない薬がありますので、症状に応じて医師から適切な処方を受けてください。その際には、①自分がドーピング検査の対象となる可能性があること ②禁止物質が含まれてない薬を処方してほしいことを伝えてください。
- 医師がアンチ・ドーピングの知識を十分に持っていない場合は、公認スポーツファーマシストとの連携を依頼するようにしましょう。公認スポーツファーマシストは、最新のアンチ・ドーピング規則に関する正確な情報・知識を持った薬剤師です。

2019年度 大会の反省

行動規範 規律違反

- あってはならない言動と規律の乱す行為(予選)
処分：一年間の資格停止（ブロック・JHA）
- 試合終了後、態度の悪いチームがあった（社会人大会）
社会人連盟より厳重注意と指導
- レッドカード（予選）
試合終了後、役員に向かって暴言があったので、レッドカードを与えた。
試合終了後のカードなので行動規範で対応
処分：1試合出場停止（レベル 1）

退場時の対応について

- キャプテンの退場（予選）
キャプテンが退場した場合は、他の選手にキャプテンマークを付け替えなければいけないところ、それを怠ったため、全体に関わることでキャプテンにカードを与えなければいけない事象が発生し、退場しているキャプテンに退場時間を加算してしまった。

2019年度
全国ルール統一研修会
2020年度の競技会に向けて

2020年2月8日～9日

(公社)日本ホッケー協会 技術委員
ホッケージャパンリーグ

ルールの解釈とルール成り立ちの意味

審判員の義務 P63 1.4-a

規則の裏付けとなる精神と
一般常識が規則解釈の支えとなる

危険かどうかは、一般常識で
ただし、一貫性がなければならないことは言うまでもない。

内 容

- 1 2019～2020規則の変更点
規則の確認(含 6人制)
- 2 規則適用とアンパイアリング
- 3 2020年度 レギュレーション

ルール成り立ちの意味を理解する

ルールがなぜあるか？なぜ変更するか？

- ① 共通のきまりを設け、競技を普及する
- ② 一定の制限を設け、競技特性を図る
- ③ 安全にゲームを行うための制限
- ④ 見て楽しい(誰にでも理解しやすい)
ゲームに発展させていく
- ⑤ ホッケー特有の競技性を維持する

規則を 言葉や文字だけでは
伝えられないものもある
「故意の反則・危険かどうか」

未必の故意(法律用語として)
確定的に犯罪を行おうとするのではないが、
結果的に犯罪行為になってもかまわないと思っ
て行為に及ぶ際の容疑者の心理状態。

信頼関係(選手・チーム・観客・役員)

常に公正・中立で一貫性のある判定
(笛を吹くこと)に専念する
選手やチーム関係者と必要以上に話をしない

一貫性とは・・・

- ・ 自己の判定の一貫性
- ・ パートナー(相手審判)との一貫性
- ・ 大会を通しての一貫性
- ・ ホッケーの試合自体の一貫性(世界共通)

外国では、
チーム登録者全員がルール試験を実施したり、
上級生が下級生のゲーム審判をしたり
しているところもある。

チャレンジの方法が・・・

- 1 語学が苦手
- 2 ルールに自信が持てない
ビデオリファールでも 厳しい状況！

ぜひ ルールを指導していただきたい!!

2019(2020)11人制主な規則変更点

- 2.2 GKの特権をもったフィールドプレイヤー 廃止。
- 4.2 味方へのパス限定、PC直後のFH、防具をはずさなくてよい。
- 4.3 GKは、肘用防具は、ユニフォーム等で覆う必要はない。
- 5.1 試合は、各15分の4クォーターで構成される。
- 12.4 サークル内に転がっている用具類にボールが当たって、その結果、おそらく入っていたと思われる得点が妨げられたならば、ペナルティストロークが与えられる。
- 13.1a サークル内で守備側に与えられたフリーヒットは、サークル内のどの場所からでも行うことができる。
- 13.2f サークル付近のFH 攻撃側が即座にフリーヒットを行わなかった場合には、5m以上離れなければならない。
- 13.3 PCシュートクロック 時間停止とする。
- 13.6 「ボールがサークルから2度目に外に出た時」の項 削除
- 13.6e PC攻撃側フライング、球出しを行っていた選手が、センターラインの後ろまで戻らなければならない。

2019(2020) 6人制主な規則 変更点

- 1 11人制 GKの項は、変更なし
- 2 その他は、11人制と同様
- 3 フリー 11人制にそろえる
- 4 イエローの退場時間 2分以上とする

2019 規則変更点3 5.1 試合形式 クォーター制の導入

- 5.1 試合は、各15分の4クォーターで構成される。第1と第2クォーター、及び第3と第4クォーターの間に2分間の休憩時間を設ける。そして、第2と第3クォーターの間には5分間のハーフタイム(休憩時間)を設ける。

PCが与えられてから実施するまでの間は時間を停止するが、得点後の時間停止は、国際大会以外では実施しない。(P8 序文)

2019 規則変更点1 2.2 GK特権を持つFPを廃止

2.2 各チームは、フィールド上に1名のゴールキーパーを置くか、又はフィールドプレイヤーとしてのみプレイするプレイヤーを置く。

2019年1月1日から施行の強制的実験規則: チームは、ゴールキーパーの特権をもったプレイヤーを使うというオプションは持てないこととする。

2019 規則変更点4 12.4 PC防具のボールがあたった時の判定

12.4 ペナルティストロークは、以下の場合に与えられる。:

- a. 守備側のプレイヤーによるサークル内の反則で、そのことによりおそらく入っていたと思われる得点が妨げられた場合。

もしも、サークル内に転がっている用具類にボールが当たって、その結果、おそらく入っていたと思われる得点が妨げられたならば、ペナルティストロークが与えられる。

2019 規則変更点1 4.2 PC防具装着のままのFH可

4.2 P25 注釈

ペナルティコーナー及びペナルティストロークの実施中、サークル内で守備を行う場合、ならびに守備側にFHが与えられた直後に行うFHで、他のプレイヤーにパスをする場合は、顔に密着するようなフェイスマスクの装着が許される。

2019 規則変更点 5 13.1 守備側サークル内のFH

13.1 フリーヒットは、以下のように実施する:

- b. バックラインから15m以内の守備側のフリーヒットは、反則の起こった地点を通る、バックラインから15m以内の地点までのサイドラインと平行の線上から行われる。

サークル内で守備側に与えられたフリーヒットは、サークル内のどの場所からでも行うことができる。

2019 規則変更点2 4.3 GK肘防具は、覆わなくてよい

4.3 ゴールキーパーは、両チームのユニフォームの色とは違う色のシャツ又は上着を身につけなければならない。

ゴールキーパーは、シャツまたは上着を着用することによって、身体に付けている防具をすべて覆わなければならない。肘用防具については、ユニフォーム等で覆う必要はない。

2019 規則変更点 6 13.2f サークル付近の攻撃側FH

フリーヒットが即座に行われた時に、サークル内でボールから5m以内にいる守備側選手は、サークルの中にいるのであれば、セルフパスでボールを動かしているプレイヤーを追って行っても構わない。ただし、ボールが5m動かされるか、もしくは合法的にプレイできる守備側プレイヤーがボールに触るまでは、その守備者はボールをプレイしてはならない。しかし、もしも攻撃側が即座にフリーヒットを行わなかった場合には、フリーヒットを行う前に、フリーヒットを行う選手以外の選手は全て、ボールから少なくとも5m以上離れなければならない。

2019 規則変更点 7 13.3 PCシュートクロック

13.3 ペナルティコーナーは、以下のように実施される。:

a. ペナルティコーナーが与えられてから、チームがゲームを再開する準備を整えるまで、プレイと時間は停止される。

チームは、できる限り短時間内で、ペナルティコーナーを実施するためのポジションにつかなければならない。

2019 6人制 規則変更点 2 13.8 PS時の守備者規程 追記

14.1 いかなる反則に対しても、反則を犯したプレイヤーは:

- a. 注意される。(口頭で指示される。)
- b. 警告される。(グリーンカードで指示される。)
- c. 試合時間中、最低2分間の一時的退場処分にかかる。(イエローカードで指示される。)

2019 規則変更点 8 13.6 PC完遂規程 削除

13.6 プレイヤーの交代と前後半終了後引き続き行われるペナルティコーナーが完遂されたことを示すために、「球出し」の後、ボールがサークルから2度目に外に出た時をもって完遂されたものとする。

上記の項 削除

2019 規則適用(重要) 1 / 4

規則7.4.c:守備側プレイヤーによって、ボールがバックラインを越えるように故意にプレイされて、それが得点とならなかった場合、その行為が故意だということがはっきりしていたならば、アンパイアはペナルティコーナーを与えることを躊躇してはならない。

2019 規則変更点 9 13.8 PS時の守備者規程 追記

e. ボールがプレイされる前に、攻撃側プレイヤーがサークル内に入ってしまった場合は、球出しを行っていた選手は、センターラインの後ろまで戻らなければならない。

: 再びペナルティコーナーが行われる。(アゲインとなる。)

2019 規則適用(重要) 2 / 4

規則 9.10 上げられたボールが落下してくる時、そのボールを受けたり、コントロールしたり、グラウンド上に戻そうとしていたりしているプレイヤーがいる時は、相手側はそのプレイヤーから5m以内の距離に近づいてはならない。このことについては、初めにボールをレシーブする権利を持つプレイヤーの場所が明らかでないような場合は、ボールを上げたチームのプレイヤーは、相手側がボールを受けようとするのを認めてやらなければならない。

2019 6人制 規則変更点 1 6.5 ブリー

6.5 けがやその他の理由によって、何の反則も起こっていないのに時間や競技が停止された時、試合を再開するためにブリーが行われる。

c. 2名のプレイヤーは、最初に自分のスティックをボールの右側のフィールド上に置き、それからボールの上方でお互いのスティックの平らな面を軽く1回打ち合わせる。その後、両プレイヤーがボールをプレイする。

2019 規則適用(重要) 3 / 4

規則9.12:オブストラクションについて、アンパイアは、スティックを使ってボールをシールドリング(隠すように覆いかぶせる)行為をもっと厳密に罰するべきである。一方では、ボールコントロールを乱そうとする目的で、押したり覆いかぶさったりしながらタックルするプレイヤーにも注意を払っておかなければならない。

規則13.2.a:「フリーヒットでは、ボールを静止させておかなければならない。」と記している。アンパイアは、時にボールの静止に関して十分な必要性を感じておらず、厳しく管理していないことがある。特に、セルフパスを行う時には、非常にいい加減な始め方をしているにも関わらず、静止を求めているケースが見受けられる。

罰則の適用と規則運用

スライディングタックル

ボールに対してのタックルで、それ自体は正当なタックルであったとしても、スライディングにより危険であったり、危険を誘発したりする結果をもたらした場合は、個人的罰則を適用する。

罰則の適用と規則運用

セルフパス導入に関する運用

- ① FHポイントを明確にすること
「どこで始まったかわからない」では、ディフェンスができていく。
対応：ボール静止をさせる。
(静止動作をする)
罰則：相手チームFH (PC)
(もしくはアゲイン)

罰則の適用と規則運用

セルフパス導入に関する運用

- ② FHポイントは従前以上に確実に反則のあった地点に近い場所

対応：選手がわかりにくい場合は、FHする前にポイントを示す
罰則：相手チームFH (PC)
(もしくはアゲイン)

罰則の適用と規則運用

セルフパス導入に関する運用

- ③ 相手が5m離れていない場合
・FHを遅らせる必要なし
・場合によっては アゲインもあり得る

罰則：FH (PC)
カード

規則の適用とアンパイアリングの留意点について

2020. 2. 8

- 1 ボディチェックがあっても、プレイが続いている場合には笛を吹かないで流す。

昨年度に比べて、比較的浸透してきた感がありますが、「試合レベルに応じて判定してほしい」との声も耳にいたします。当然、アドバンテージか否かを見極めることが重要です。

今後も、安易に笛を要求するように手を挙げたりプレイをあきらめたりすることなく、笛が鳴るまでプレイを続行することをチームにもお願いいたします。

- 2 ライナー性の上げられたボールに対しての危険度の判定はおおむね共通理解できてきています。

スクープボールの落下点での占有権についての判定のばらつきも改善されつつあります。危険なプレイを避けるための笛のタイミングを早くするように審判員に指導をしています。

- 3 FHのリスタートにおいて、ポイント違いの指摘で笛が吹かれることが多い。明らかに有利なポイントはだめだが、若干の違いでも神経質に指摘する笛が多いので改善してほしい。

本年度も、指摘をされてしかるべきという笛もありました。引き続き改善を指導していきます。

- 4 サジェスションアンパイアによるチャレンジ、ビデオアンパイア制度によるリファール

この制度は、試合をできるだけ公平で納得いく判定にしていくことが目的です。そのためにも、瞬時にチャレンジすることの重要性を認識していただきたいです。また、チャレンジは20秒以内という規定もあります。さらに、チャレンジが可能な事象かどうかということも認識していただき、制度が浸透して納得のいくものになっていくことを期待しています。

- 5 次年度の大会から、スティックスタンドを設置しないことといたします。そのため、装具チェック時に使用する可能性のあるスティックは全てリングパスとチェックを受けてベンチで管理してください。

- 6 TD制を確立し、地方大会等でもTDを必ず置いて大会を実施するように、2018年6月26日付通達をしておりますが、いまだ実施されていない大会があります。コンプライアンスの問題も含めて、必ずTDを置くようお願いいたします。

- 7 試合開始時のチーム人数について曖昧な解釈がございました。試合開始時、ピッチ内に11人制の場合11人、6人制の場合6人揃っていない場合は、その試合は不成立といたします。

昨年から継続している確認事項について

※近年、集中豪雨や台風等の自然災害による、試合の中断や日程・試合時間の変更等が多く発生している。また、Jアラート発令時の対応も懸念される。そのため、以下の通り確認しておく。

① 自然災害等によって、試合時間の短縮、日程の変更およびそれに伴う決勝や準決勝の取りやめがありうることをチームおよび競技会運営者は想定していただきたい。

時間や日程の変更がある場合は、臨時監督会議もしくは緊急連絡（ファックスかメール）により周知する。その際、後日開催は絶対に避けることとする。TD 決済に最大限の協力を求める。

② Jアラート発令時には、即時試合を中断し避難する。再開の様子を確認した後に TD が判断する。

③ 2020年度確認事項

真夏の酷暑時の試合、大会運営について

選手の健康面を優先して、柔軟な大会運営をしてください。特に、試合時間やハーフタイムの取り方等についても柔軟な対応をお願いいたします。

熱中症感知計をテーブルに準備することも一つの対策ですが、感知計に従うと試合自体ができないことにもなるケースが多くあります。その場合は、大会運営上可能な限り、休憩時間を変更したり、試合の日程を変更したりしての対応も考えていただくようお願いいたします。

④ 大学選手権、社会人選手権、全日本選手権のスターティングリスト人数については、検討して別途実施要項への記載をもって決定といたします。ただし、関係機関・連盟には事前連絡いたします。

ホッケー競技運営規程

2020年4月1日改訂

公益社団法人 日本ホッケー協会

主要改定箇所 2020.4

序文 目的

本規程は、ホッケーの大会が公正かつ安全に滞りなく行われ、チーム関係者、観客、運営者、競技役員等の大会に関わるすべての人々がホッケー競技を通じて、心身の健全な発達、健康の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等を享受し、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進するものである。

1. 大会適用規則

- 1.1 本規程は日本国内で行われるすべての公式試合に適用される。試合は大会開始日に有効なホッケー競技規則と本競技運営規程に則って行われる。本規程の付属書による変更がある場合には、その変更を優先させ、本規程として扱う。ただし、国際試合については、本規程の適用外とする。
- 1.2 大会開催にあたり本規程を補完する大会運営規程を定めることができる。大会運営規程と本規程の定める内容が競合する場合は、大会運営規程を優先させるが、大会運営規程は、大会開始前までに主催者または共催者の承認を得なければならない。
- 1.3 チーム代表者会議でチーム代表者と TD で合意が得られた事項は本規程に優先する。
- 1.4 リーグ戦の場合の順位決定方式は付属書 2 に規定する。
- 1.5 本規程は、公益社団法人日本ホッケー協会（以下「JHA」という）のウェブサイトに公表される。本規程の改訂時には各都道府県協会および関係団体に通知される。
- 1.6 行動規範（付属書 4）は、競技に参加する者がホッケー競技への自覚と責任を持つために制定され、適用される。
- 1.7 公式試合とは、公益社団法人日本ホッケー協会（以下「JHA」という）、ブロック協会、都道府県協会、ホッケージャパニリーグ、日本社会人ホッケー連盟、日本学生ホッケー連盟およびその傘下団体のブロック学生連盟、全国高等学校体育連盟およびその傘下団体のブロック・都道府県高等学校体育連盟が主催または共催する大会でホッケー競技規則（6人制、インドア含む）に基づき実施される試合をいう。
- 1.8 JHA が主催または共催する大会（以下、「全国大会」という）の期日、開催地はあらかじめ JHA 理事会の承認を得なければならない。

2. 競技役員

- 2.1 全国大会および国民体育大会ブロック大会のテクニカルデリゲート（以下、「TD」という）、アンパイアマネージャーは JHA が指名する。TD は本規程の定める範囲における大会運営に関わる JHA としての全権限と決定権を有する。
- 2.2 TD は大会の競技役員として指名された者の中から、各試合のアンパイア（サジェスションアンパイア、ビデオアンパイアを含む）、テクニカルオフィサー（以下、「TO」という）、ジャッジ（以下、「JG」という）を以下の条件に基づき指名する。
 - a TO、アンパイアの出身チームが行う試合に指名できない（可能な限り他の競技役員についてもこの原則が適用される）。
 - b 参加チームのプレイヤー、役員を大会の競技役員に指名することはできない。
- 2.3 TD は、全参加者が行動規範を確実に遵守するようにしなければならない。そのための行動規範、関係する規程に基づく必要な措置を行う権限を有する。
- 2.4 TD は、JHA 技術委員長の同意のもと TD 権限の全部または一部を必要な期間中競技役員の誰かに委譲することができる。

3. 参加申込

- 3.1 参加チームは別途定められた期日までに大会参加申込書を JHA と大会実行組織委員会（大会主管者）の両方に提出しなければならない。
- 3.2 大会参加申込書に記載されている者は大会参加申込書の提出により、大会運営規程等の JHA が定める規程に従うことに同意したものとする。
- 3.3 すべてのプレイヤーは、1 から 9930 までの数字をつけた背番号により識別され、この数字は大会を通じて同じでなくてはならない。
- 3.4 大会参加申込書には以下の項目が含まれていなくてはならない。
 - a 最大 30 名までのプレイヤーの氏名とその背番号。プレイヤーの中からキャプテンを指名しなくてはならない。
 - b 監督の氏名。監督は、ヘッドコーチ等他のチーム役員とは兼務できない。チーム役員とは大会参加申込書に記載されている者のうちプレイヤーを除いた者を指す。
 - c プレイヤーおよびチーム役員全員の JHA 登録番号。

- d ベンチに入ることを希望するヘッドコーチ、アシスタントコーチ、フィジオセラピスト、ドクター、部長（任意数各1名）がいればその氏名。フィジオセラピストまたはドクターの代わりに手当とする者として登録することができる。手当とする者は、大会開始日に20歳以上でなければならない。
- e JHA ユニフォーム規程に基づくフィールドプレイヤーのファーストおよびセカンドユニフォームの色。
- f JHA ユニフォーム規程に基づくゴールキーパーのファーストおよびセカンドユニフォームの色。
- 3.5 JHA は、参加申込書に記載されているプレイヤーの大会参加資格要件（所属、年齢等）および JHA が発行する登録証の確認をいつでも行うことができる。正当な理由がなく確認を拒否もしくは受けなかったプレイヤーは、当該大会には参加できない。さらに、JHA は当該プレイヤー、所属チーム、関係機関に対する追加の制裁措置を行うことがある。参加申込書に記載されるプレイヤーおよびチーム役員は、大会開始時点で有効な登録証を所持していなければならない。
- 3.6 同じ会場で別の大会が同時に開催される場合、監督は別のチームの監督を兼務することはできない。
- 3.7 大会主管者（実行委員会）はチーム代表者会議までに大会参加申込書のコピーを TD に提出しなければならない。
- 3.8 大会参加申込書の記載内容の変更は、チーム代表者会議までに監督が大会主管者（実行委員会）に文書にて通知しなければならない。文書を電子メールで送信する場合は、大会主管者および JHA（info@japan-hockey.org）の両方に通知しなければならない。チーム代表者会議が開催されない場合は、大会最初の試合が行われる日の前日の正午を期限とする。大会主管者が別途期限を定めている場合はそれを期限とする。この期限以後の変更は認められない。3日前の17時を期限とする。
- 3.9 参加チームが出場を辞退した場合、補欠チームの参加については、主催者が決定する権限を有する。決定後、速やかに他の参加チーム、メディアに通知されなければならない。

4. チーム代表者会議

- 4.1 監督とチームの代表者の合計2名は、大会開始前に TD が開催するチーム代表者会議に出席しなければならない。2名は大会参加申込書に記載された者でなければならない。
- 4.2 監督はチーム代表者会議または TD が指定した会議に以下のものを持参しなければならない。
 - a フィールドプレイヤーとゴールキーパーのファーストとセカンドユニフォームのサンプル
 - b 試合に用いる用具（スティック、ゴールキーパーのヘッドギア、ハンドプロテクター、レガード、キッカーズ、フィールドプレイヤーが装着するフェイスマスク、ハンドプロテクター等の防具）。TD により用具の点検は試合前等の他の機会に行うと決定された場合を除く。
 - c 参加者全員の JHA 登録証。TD により登録証の確認を他の機会に行うと決定された場合を除く。
 - d JHA 行動規範確認書。（TD の指示があった場合）
- 4.3 やむを得ず監督が出席できない場合は、TD の承認により代理者を出席させることができる。ただし、代理者は参加申込書に記載された者でなければならない。
- 4.4 正当な理由なく出席しなかったチームに対し、TD は制裁措置を行うことがある。

5. スターティングリスト（試合のチーム構成）

- 5.1 チームは試合毎に大会参加申込書にプレイヤーとして登録された最大30名の中から、最大18名までのプレイヤーを試合に出場させることができる。出場させるプレイヤーは試合毎に異なっていてよい。プレイヤーが TD によって出場停止処分を受けた場合には、その試合での出場可能プレイヤー数は出場停止処分を受けた人数分だけ少なくなる。
- 5.2 チーム代表者会議で TD が指定した方法（6人制の大会を除き、電子メールによる提出を原則とする）で指定された期限までに監督は以下を記載したスターティングリストを提出しなくてはならない。
 - a 試合に先発する11名のプレイヤー。
 - b 試合開始時にチームベンチに座る7名までのプレイヤー（出場停止者がいる場合は、その氏名を記載し、「S」と印をつける）。
 - c 試合のキャプテンとゴールキーパー。
 - d 試合の監督。監督がやむを得ない理由により不在の場合は、監督を代行する者の氏名。その場合は、あらかじめ TD の許可を受けなければならない。監督を代行する者は、参加申込書に記載された者でなければならない。
 - e 試合のコーチ（ヘッドコーチまたはアシスタントコーチから1名が指名される）。
 - f 手当する者（最大2名）。手当とする者にはフィジオまたはドクターを指名できる。また、手当とする者には、試合に出場する最大18名のプレイヤーと監督を除く者（プレイヤーを含む）を指名できるが、大会開始日に20歳以上の者でなければならない。
 - g その他チームスタッフ1名（役職は問わない。ただし、手当する者は除く。）。
 - h 試合で着用するユニフォームの色。

- 5.3 スターティングリストに記載される者は、大会参加申込書に名前が記載されている者の中からのみ行うことができる。ただしTDにより、その試合への出場停止処分を受けた者は除く。
- 5.4 指名されたプレイヤーが試合開始前の練習中にプレイできない状態になった場合には、大会参加申込書記載のプレイヤーの中から変更することができる。監督はT0にこの旨を伝えなくてはならず、T0はこれを対戦相手の監督とメディアに伝える。

6. チームの服装、装具、カラー

- 6.1 TDは、各試合でのフィールドプレイヤーとゴールキーパーが着用するユニフォームを指定する権限を有する。
- 6.2 試合中にウォームアップする交代プレイヤーは、両チームのカラーとは異なる色のビブス等の服装を身につけなくてはならない。
- 6.3 試合を行うチームは、試合会場にファーストおよびセカンドの両方のユニフォームを持参しなければならない。また、それぞれ2セットの背番号の付いていないフィールドプレイヤー用ユニフォームと、背番号として使える素材を準備しておき、血で汚れたユニフォームを着替えるなどの事態に備えなければならない。
- 6.4 試合の間、全プレイヤーのユニフォームは揃っていて、整然としていなくてはならない。
- 6.5 フィールドプレイヤーは、
 - a 試合中は常にソックスの内側で膝より下にすねあてを着用しなければならない。
 - b マウスピースの着用を推奨する。
 - c ユニフォームの下に、体を守るための装具を装着してもよい。膝あてはソックスの外側に装着してもよい。ただし、T0によって危険と判断されるものは装着できない。
 - d TDの許可により、医学上の理由による装具を装着できる。
- 6.6 プレイヤーまたはチーム役員が使用するすべての服装、装具には、JHAユニフォーム規程で認められている以外の広告の表示がないこと。
- 6.7 プレイヤーまたはチーム役員が着用する服装、プレイヤーが試合で使用する装具に表示される製造者識別標については、著しく大きくない限り認められる。
- 6.8 フィールド上のプレイヤーは受信装置を装着または使用してはならない。また、T0に危険と判断されるものを装着してはならない。
- 6.9 試合で使用するスティックは、競技規則に記載の仕様に適合し、JHAが認めるスティックシールが添付されていなければならない。
- 6.10 PC守備時に使用できる保護用手袋の大きさは、長さ270mm、幅160mm、厚さ130mm以内とする。
- 6.11 帽子の着用は認められない。ただし炎天下や大会に応じ、TDの事前の許可に基づき着用できる場合がある。着用可否については、大会の状況、チーム内の統一性や両チームのユニフォームの色との対称性を考慮してTDが判断する。中学生以下の大会についてはTDの許可を得ずに着用を認める（ただし、TDには状況に応じて着用を認めない権限がある）。
- 6.12 喪章はTDの事前の許可に基づき着用できる。その際は選手全員（ゴールキーパーを除く）が同一箇所に着用しなければならない。

7. 試合時間

- 7.1 アンパイアが試合を開始・再開し、中断・再開ごとにT0に合図をする。
- 7.2 試合時間の管理はT0が行い、各クォーターの終了の合図を行う責任がある。ただし、競技規則に規定された各クォーター終了時にペナルティコーナーの完遂のための試合時間の延長時は、アンパイアが各クォーターの終了の合図をする。
- 7.3 試合が引き分けで終了した場合に、勝者を決定する必要がある場合は、付属書3に規定するシュートアウト戦を行い、勝者を決定する。

8. プレイヤーの交代

- 8.1 交代は競技規則に従い、公式試合記録に記載されたプレイヤーの中から行う。
- 8.2 交代はT0が管理する。
- 8.3 交代でフィールドを退出したプレイヤーは直ちにチームベンチに戻らなければならない。
- 8.4 交代は監督の責任で行う。

9. フィールドへの入場

- 9.1 コーチは、試合の間はいかなる状況下でもフィールドに入場することはできない。ただしシュートアウト戦実施中は入場することができる。
- 9.2 ベンチに入る者は試合中断中も含め、ベンチに着席していなければならない。ただし T0 またはアンパイアの指示があった場合は除く。交代プレイヤーは T0 が指定した場所でウォームアップをするためにベンチを離れることができる。手当とする者はチームベンチの端でプレイヤーを手当するために席を離れることができる。
- 9.3 監督はベンチに座っている全員の行動に対して責任をもつ。テクニカルテーブルに最も近い席に座っていても、監督またはコーチはコーチングのために一時的に立ち上がるか、コーチングエリア（設定されている場合）に入ることができる。ただし、2名以上が同時にコーチングエリアに入ることにはできない。
- 9.4 チームベンチにいるチームスタッフ、プレイヤーの言動は、競技役員、アンパイア、相手チームのプレイヤーに対するものであってはならない。
- 9.5 監督が T0 から警告を受けてもなお、チームベンチでの行動に違反があった場合、T0 は、この行為を行った人物に対し、一時的または残りの試合時間中ベンチから退場させ、テクニカルテーブル後方またはロッカールームに止め置く権限を持つ。試合後、T0 は TD に経緯を報告し、TD は必要に応じてさらなる制裁措置を行う権限を持つ。
- 9.6 フィールド上での負傷者（GK を除く）の治療は許されない。もしプレイヤーがフィールド上でプレイ不能となった場合、アンパイアは試合を中断し、処置が必要かどうかを判断する。ただし、手当する者は、医学的見地から必要と認められる場合には、アンパイアの許可無しにフィールドに入場することができる。
 - a アンパイアにより処置が必要と判断された場合は、手当とする者の中からの 1 名と監督の最大 2 名がフィールドに入場することを認める。フィールドに入場している間、コーチングを行ってはならない。
 - c 必要に応じてアンパイアはストレッチャーがフィールドに入場することを許可する。
 - d フィールドに入場することを許可された者は、医療上の理由で動かすことが適切でない場合を除き、当該プレイヤーをフィールドの外に出さなければならない。
- 9.7 チームベンチから誰か（ストレッチャーを含む）がプレイヤーの手当のためにフィールド内に入場した場合には、
 - a そのプレイヤーがフィールドプレイヤーである場合は、そのプレイヤーはフィールドを出てチームベンチに試合時間で 2 分間以上留まらなくてはならない。
 - b 2 分間の計測は、T0 が行う。
 - c そのプレイヤーに対する交代はホッケー競技規則に基づき認められる。
- 9.8 フィールドが血液で汚れた場合には、抗生物質耐性菌に対して効果的な非酸性表面洗浄剤を使って直ちに洗浄を行う。これがない場合には、80%アルコール溶液を使用する。この洗浄作業中は試合を中断する。
- 9.9 フィールド内で給水および摂食してはならない。試合中断中を含め、試合中に摂食するプレイヤーはフィールドを出なくてはならない。ゴールキーパーはゴール直近のフィールドから出入りしてよい。
- 9.10 チーム役員とプレイヤーはハーフタイムの間、T0 の許可によりフィールド周辺の競技エリアから離れることができる。
- 9.11 TD の指示があった場合は、すべての選手とチームスタッフは試合終了後にプレスミックスゾーンを通過しなければならない。
- 9.12 フィールドが見渡せるビデオタワー（撮影施設）に入る者は声を出してはならない。コーチングは指定されたエリアからのみできる。

10. 試合の中断

- 10.1 アンパイアまたは T0 が天候、フィールドのコンディション等の理由により試合を中断した場合には、以下の条件に基づきできるだけ速やかに試合を再開するが、同じフィールド、同日とは限らない。
 - a 試合は規定の時間を完了させなくてはならない。再開時のスコアは中断した時点のものとする。
 - b 再開時には試合の中断はなかったもの見なし、8. に規定されるプレイヤー交代手順が適用される。

11. メディカルデータ

- 11.1 JHA は、大会中の怪我に関する情報を収集することができる。これは、選手の安全と健康のために行われる
- 11.2 チームは情報収集に協力するものとする。集められた情報は統計的に処理される。

12. 公式試合記録

- 12.1 試合が終了した時点で公式試合記録がテクニカルテーブルで作成される。これは試合の要約であり、プレイヤー全員

とチームスタッフ、試合に指名された競技役員全員の氏名と試合結果を含む主要な統計値が記録される。

- 12.2 両チームの監督は抗議を行う場合でも試合終了後5分以内に公式試合記録に署名しなくてはならない。
- 12.3 試合の競技役員は、両チームの監督が署名した公式試合記録に署名しなくてはならない。
- 12.4 全員の署名が完了した後の記録の修正はできない。ただし、全員の署名完了後に記録内容の明らかな誤りが発見された場合は、両チームの監督、TD、TO、アンパイアの6名全員の合意に基づきTDが修正できる。その際は、特記事項欄に修正内容、修正日時、6名のそれぞれが合意した日時を補記する。合意は口頭（電話）で求めることができる。

13. 棄権・失格

13.1 リーグ戦の場合

- a 公認される事由なく試合開始時に試合に出場する選手が11名に満たないチーム、試合を棄権したチーム、試合拒否ないし試合を終了させることを拒否したチームは、大会を棄権したものと見なす。
- b チームが上記の理由により棄権となった場合、
 - i それまでにチームが行ったすべての試合、およびこれから行う予定だった試合について0-5の敗戦と記録される。
 - ii そのチームは失格とし、大会での順位は付与されない。
 - iii そのチームが所属するリーグ内の全チームの試合結果が修正されて、順位が決定される。
 - iv そのチームが行った試合のチーム成績とプレイヤーの個人記録は削除される。

13.2 トーナメント戦の場合

- a 公認される事由なく試合開始時に試合に出場する選手が11名に満たないチーム、試合を棄権したチーム、試合拒否ないし試合を終了させることを拒否したチームは、大会を棄権したものと見なす。
- b チームが上記の理由により棄権となった場合
 - i チームはその試合において0対5で負けたものとする。
 - ii チームは失格とし、大会での順位は付与されない。
 - iii チームのそれまでの試合のチーム成績および個人記録は保持される。

13.3 棄権が発生したタイミングに応じてTDは大会における順位決定方法を定める権限を有する。

13.4 JHAは棄権したチームに対し更なる処罰を科す権限を有する。

14. サジェスションアンパイア及びビデオアンパイア

14.1 サジェスションアンパイア及びビデオアンパイア制度の運用方法については付属書6に規定する。

15. 行動規定と処罰

- 15.1 JHA行動規範はJHAが主催または共催する大会の競技役員を含めたすべての参加者に適用される。TDは、大会期間中の競技役員の言動に責任を負う。監督は、大会期間中のチーム役員、プレイヤーの言動に責任を負う。
- 15.2 本規定の付属書4で行動規範およびこれに関連するガイドラインを規定する。
- 15.3 出場停止期間の決定については、大会終了までの残りの試合に限る必要はなく、大会終了後の試合を含んだ出場停止処分を科すことができる。
- 15.4 出場停止処分を受けた者は、出場停止処分を受けた試合が終了するまで、フィールド、テクニカルエリア（チームベンチ、ビデオタワーを含む）に立ち入ることはできない。

16. 抗議

- 16.1 試合終了後またはシュートアウト戦の後に試合に関する抗議を行う場合、監督は、
 - a 公式試合記録に署名する際に、署名のすぐ下に抗議の意向を直ちに記入しなくてはならない。
 - b 抗議理由を文書にして試合終了またはシュートアウト戦の後15分以内にTOに提出しなくてはならない。
 - c 同時に5万円をTOに供託しなければならない。
- 16.2 抗議が行われた場合、TOは直ちにTDに報告しなくてはならない。
- 16.3 本規定の内容にかかわらず、試合中のアンパイアの判定に関する抗議は行うべきではない。
- 16.4 チームは大会期間中のTDの決定（16.1に基づく抗議に対する裁定を除く）ないし本規定の適用についてTDに抗議を行うことができる。その場合、監督は、
 - a 抗議理由を文書にしたものを抗議の対象となる通知や公表が行われてから30分以内にTDに提出しなくてはならない。
 - b 抗議文書と同時に5万円をTDに供託しなければならない。

- 16.5 TDは抗議の提出から2時間以内に決定を下し、公表しなくてはならない。参加資格に関する疑義で調査が必要な場合は、決定を保留できる。TDは決定直後に、抗議を行った監督に決定内容を直接伝えることが望ましい。
- 16.6 監督は、TDが抗議に対する決定内容を伝える機会を作らなくてはならない。
- 16.7 本規定の抗議手順が完全に遵守されなかった場合、抗議は却下される。
- 16.8 抗議が正当なものとして認められた場合には供託金は返還される。抗議が認められなかった場合でも、大会後のJHA技術委員会の検証や新規認定事項に基づき、JHA技術委員長は供託金の全部または一部を後日返還することがある。
- 16.9 抗議が行われた場合、TDは経緯と決定内容についてJHA技術委員長に速やかに報告しなければならない。

17. アピールジュリー

- 17.1 アピールジュリーは日本国内では設置しない。

18. アピールジュリー制度の運用

- 18.1 アピールジュリー制度は日本国内では採用しない。

19. アンチ・ドーピング

- 19.1 ドーピング検査は、大会開始時点で施行されている日本アンチ・ドーピング規程に基づいて行われる。
- 19.2 すべての試合がドーピング検査の対象となる。
- 19.3 すべてのプレイヤーは試合後、ドーピング検査の対象となりえる。これには試合時間を通じてチームベンチにいたプレイヤーも含まれる。大会で1名のプレイヤーが2回以上のドーピング検査の対象となることがある。
- 19.4 検査対象に選ばれたプレイヤーは、基準に合致する尿または血液検体を提出する前にシャワー、バス、アイスバス等に入ってはならない。

20. 想定外の事態

- 20.1 本規程に記されていない事態が生じた場合、TDは必要な処置を決定する権限を有する。
- 20.2 TDの決定(16.1に基づく抗議に対する決定を除く)により影響を受けたチームが抗議をする場合には、規定16.4に決められた手順で行わなくてはならない。

21. その他

- 21.1 大会会場には自動体外式除細動器(AED)を設置しなければならない。
- 21.2 TDの許可により、サイドラインから2m以上離れたチームベンチ前にコーチングエリアを設置することができる。
- 21.3 6人制、インドアの試合による大会にも本競技運営規程が適用されるが、チームエントリー人数等の変更箇所は大会運営規程に記載する。
- 21.4 1.2で定める大会運営規程は本規定からの変更および追加事項のみを記載したものを大会運営規程として定めることを推奨する。
- 21.5 本規定は、国際ホッケー連盟の競技運営規程(2019年3月改定)に基づき作成されたものである。国際ホッケー連盟が行う規程の変更や国内の状況を踏まえてJHAは本規程を適宜変更する。その際は、1.5に基づき公表される。
- 21.6 本規程は、2020年4月1日に改定され効力を有する。

付属書1 ホッケー競技規則に優先する項目

付属書1に規定する以下の項目は、ホッケー競技規則に優先する。

1. チームキャプテン

- 1.1 キャプテンはアームバンドかそれに類するものを上腕部、肩、ソックスのいずれかに身につけなければならない。

2. 試合時間

- 2.1 試合は、15分間の4クォーターと10分間のハーフタイムからなる（クォーター制）。ただし、ハーフタイムの時間は、大会運営規程で変更して良い。クォーター制の実施方法は下記のとおりとする。
- a 試合は、15分間の4クォーターからなる。
 - b 第1クォーターと第3クォーターの終了後に2分間のインターバルを設ける。その間は、チームはフィールドから離れてはならない。チームの準備ができていなくても、2分経過と同時に試合を再開する。プレイヤーから見える位置に時間の経過が明示される設備（デジタルタイマー等）が設置されなければならない。タイマーがない場合は、審判員またはT0から試合再開時間が近づいていることを適切なタイミングでチームに伝える。
 - c 第2クォーター終了後に10分間のハーフタイムを設ける。その間、チームはT0の許可によりフィールドおよびテクニカルエリアを離れても良い。チームの準備ができていなくても、10分経過と同時に試合を再開する。プレイヤーから見える位置に時間の経過が明示される設備（デジタルタイマー等）が設置されなければならない。タイマーがない場合は、審判員またはT0から試合再開時間が近づいていることを適切なタイミングでチームに伝える。
 - d 第1クォーターでセンターパスを行ったチームが第2クォーターのセンターパスを行う。第1クォーターでセンターパスを行わなかったチームが第3クォーターと第4クォーターのセンターパスを行う。
 - e 各クォーター終了時間は、ペナルティコーナー、引き続いてのペナルティコーナーおよびペナルティストロークを完遂するために引き延ばされる。
 - f ペナルティコーナーが与えられたとき、試合時間は停止され、ペナルティコーナーの準備のために40秒間を与えられる。ペナルティコーナーの開始の際はアンパイアが笛を吹き、この合図をもって試合時間の計時を再開する。両チームの準備ができていれば40秒経過を待たずにアンパイアは笛を吹いてペナルティコーナーの開始の合図を行う。
 - g 連続して与えられたペナルティコーナーとチャレンジ権を行使した後のペナルティコーナー時には試合時間は停止されるが、チームに40秒間を与えられたものではなく、アンパイアはできるだけ速やかにペナルティコーナーを開始しなければならない。
 - h 上記f、gにおける時間停止は、大会の規模や試合の種類に応じて採用しなくても良い（ノンストップ方式）。また、TDは試合ごとに採否を変更する権限を有する。ただし、採否についてはチーム代表者会議までに決定され、参加チームに通知されなければならない。（原則として、大会実施要項に「ストップ方式」か「ノンストップ方式」かを記載することを推奨する。予選リーグはノンストップ方式、決勝トーナメントはストップ方式といった大会内での使い分けも可能とする。）

3. グリーンカード（2分間の退場）

- 3.1 反則を犯したプレイヤーは警告され、さらに競技時間中に2分間の退場処分が科せられる（グリーンカードで指示される）
- a 退場の間、チームは1名少ないプレイヤー数で試合を行う。
 - b フィールドプレイヤーにグリーンカードを提示する場合、アンパイアは試合を止め（時間を止めなくてもよい）、カードを提示する。時間を止めた場合は、カード提示後直ちに再開する。
 - c ゴールキーパーにグリーンカードを提示する場合、アンパイアは時計を止め、そのプレイヤーがフィールドから出た直後に再開する。
 - d カードを提示されたプレイヤーは直ちにフィールドから退場しなければならない。指定された場所へ移動する途中でプレイを妨害した場合には、アンパイアは競技規定に沿って罰則を追加する。
 - e 退場時間は、プレイヤーが指定された場所に着席した時点から計時する。
 - f 退場時間の管理はT0が行う。
 - g プレイヤーは、T0が退場時間の完了を告げた時にプレイを再開することが許される。
 - h 退場者がゴールキーパーであった場合は、T0が一時退場時間の終了をアンパイアに伝達する。アンパイアはその直後

のプレイが止まった時に時計を止め、当該プレイヤーがフィールドに戻る時間を与える。

4. イエローカード（一時退場）

- 4.1 反則を犯したプレイヤーは、競技時間中に最低5分間の退場処分が科せられる（イエローカードで指示される）。
 - a 退場時間の長さはカードを提示したアンパイアから T0 に伝えられる。
 - b 退場の間、チームは1名少ないプレイヤー数で試合を行う。
 - c フィールドプレイヤーにイエローカード提示する場合、アンパイアは試合を止め（時間を止めなくてもよい）、カードを提示する。時間を止めた場合は、カード提示後直ちに再開する。
 - d ゴールキーパーにイエローカードを提示する場合、アンパイアは時計を止め、そのプレイヤーがフィールドから出た直後に再開する。
 - e カードを提示されたプレイヤーは直ちにフィールドから退場しなければならない。指定された場所に移動する途中でプレイを妨害した場合には、アンパイアは競技規則に沿って罰則を追加する。
 - f 退場時間は、プレイヤーが指定された場所に着席した時点から計時する。
 - g 退場時間の管理は T0 が行う。
 - h プレイヤーは、T0 が退場時間の完了を告げた時にプレイを再開することが許される。
 - i 退場者がゴールキーパーであった場合は、T0 が一時出場停止時間の終了をアンパイアに伝達する。アンパイアはその直後のプレイが止まった時に時計を止め、当該プレイヤーがフィールドに戻る時間を与える。

5. ペナルティコーナークロック

- 5.1 ペナルティコーナーの判定が下された時点から 40 秒以内にペナルティコーナーを再開しなければならない。
- 5.2 PC が与えられたとき上記 4. に基づき試合時間は 40 秒間停止される（ペナルティコーナーへの準備時間として）。アンパイアは両チームに 40 秒の経過が近づいていることを必要に応じて伝える。40 秒経過時にアンパイアは笛を吹いてペナルティコーナーの開始を合図する。両チームの準備ができていれば、40 秒経過前であっても笛を吹いてペナルティコーナーの開始を合図する。笛の合図により試合時間の計測が再開される。
- 5.3 これはボールがサークルから 5m 以上離れる前に連続して与えられたペナルティコーナーには適用しない。
- 5.4 遅延行為があった場合は、当該プレイヤーに個人的罰則を科す（グリーンカード）。たび重なる遅延行為には更に重い個人的罰則を科す（イエローカード）。その場合は、そのペナルティコーナーおよびその後の連続して実施されるペナルティコーナーは、1 名少ない人数で守ることになる。もし当該プレイヤーが守備側のゴールキーパーの場合は、そのペナルティコーナーは 1 名少ない人数で守ることになるが、個人的罰則は、他の守備側プレイヤーに科す（守備側チームが罰則を受けるプレイヤーを守備についているフィールドプレイヤーの中から選択できる）。

付属書2 リーグ戦での順位決定方法

1. リーグ戦での順位決定方法

- 1.1 各試合について次のポイントが付与される。
 - － 勝者に3ポイント
 - － 引き分けた場合には両チームに1ポイント
 - － 敗者に0ポイント
- 1.2 リーグ戦終了時に、獲得したポイント数が最も多いチームから順に上位とする。
- 1.3 2チーム以上のチームのポイント数が同じ場合には、勝ち試合数が多い順に上位とする。
- 1.4 1.3でも2チーム以上のチームが同位の場合には、得失点差の多い順に上位とする。
- 1.5 1.4でも2チーム以上のチームが同位の場合には、得点数の多い順に上位とする。
- 1.6 1.5でも2チームが同位の場合には、この同位チーム同士の試合の勝ちチームを上位とする。
- 1.7 1.5でも3チーム以上が同位の場合には、同位チームだけの試合結果に基づき、1.1から1.6までを適用して順位を決定する。
- 1.8 1.7でも2チームが同位である場合には、これらチームによるシュートアウト戦により順位を決定する。
- 1.9 1.7でも3チーム以上が同位の場合には、それらのチームによりリーグ戦の試合順序と同じ順序でシュートアウト戦を行う。ただし各チームのシュートアウト数は5回のみとする。
- 1.10 1.9により、シュートアウト戦の結果だけに基づいてランキングが決定される。1回の対戦において勝者に3ポイント、引き分けには両チームに1ポイント、敗者には0ポイントを付与する。
- 1.11 1.10でも同位である場合には、シュートアウト戦で記録されたゴール数に1.3から1.7を適用して順位を決定する。
- 1.12 1.11でもなお3チーム以上が同位である場合には、各チームの順位が決定するまで同じ過程をくりかえす。再度のシュートアウト戦が必要な場合には、TDが対戦順序を決めるくじ引きを行う。

付属書3 シュートアウト戦

シュートアウト戦では、両チームの5名ずつのプレイヤーが交代で相手チームの守備者と1対1のシュートアウトを行う。以下の競技規則と実施手順に基づき実施される。

- 1 試合終了後にシュートアウト戦を行う場合は、試合終了後5分間以内に開始しなくてはならない。
- 2 両チームの監督は公式試合記録用紙に記載されているプレイヤーの中から、攻撃を行う5名のプレイヤーと守備を行う1名のプレイヤーを指名する。守備を行うプレイヤーが攻撃を行うプレイヤーを兼ねても良い。下記に規定する場合を除き、シュートアウト戦での選手交代は認められない。(攻撃の順番を予め申告する必要はない)
- 3 シュートアウト戦実施時にTDより出場停止処分を受けているプレイヤーや試合終了後に続けて行われるシュートアウト戦の当該試合でレッドカード処分を受けているプレイヤーは参加できない。試合終了時にグリーンカードやイエローカードで退場処分中のプレイヤーは参加することができる。
- 4 TDは施設等の状況を考慮して時間計測方法を決定する。必要に応じてタイマーをフィールド内に設置してもよい。
- 5 TDは使用するゴールを決定する。
- 6 コイントスによって、先攻か後攻を決定する。
- 7 試合終了後に続けて行われるシュートアウト戦の当該試合でレッドカード処分を受けているプレイヤーを除き、エントリーフォームに記載されている者は使用する23mエリア外でシュートアウト開始地点から10m以上離れたフィールドに入ることができる。
- 8 GKまたは守備者はサークル外のバックラインの外で待機しても良い。
- 9 シュートアウトを行うプレイヤーと守備者のみが23mエリア内に入ることができる。
- 10 攻撃を行うプレイヤーで守備も行う場合は、そのプレイヤーの防具の取り外しや装着のための適切な時間が与えられる
- 11 両チーム5名のシューターが交互にシュートアウトを行い合計10回のシュートアウトが行われる。
- 12 シュートアウトの実施方法は下記のとおりとする。
 - (ア) GKまたは守備を行うプレイヤーはゴールポスト間のゴールライン上またはゴールラインの後ろに位置する。
 - (イ) ボールをゴールの中心から最も近い23mライン上に置く。(23mラインの中心)
 - (ウ) 攻撃を行うプレイヤーは23mエリア外のボールの近くに位置する。
 - (エ) アンパイアが笛を吹く。
 - (オ) テクニカルテーブルにいる競技役員が計時を開始する。(またはTDによって決められた方法で計時を開始する)
 - (カ) 両プレイヤーはどの方向に動いてもよい。
 - (キ) シュートアウト戦は次の該当する場合に終了する。
 - i. 開始の合図から8秒が経過したとき
 - ii. ゴールとなったとき
 - iii. 攻撃するプレイヤーが反則したとき
 - iv. GKまたは守備するプレイヤーがサークル内外で故意でない反則をしたとき。この場合は同じプレイヤーにより再びシュートアウトが行われる。
 - v. GKまたは守備するプレイヤーがサークル内外で故意の反則をしたとき。この場合はPSがあたえられる。
 - vi. ボールがバックラインかサイドラインを越えたとき。GKまたは守備するプレイヤーが故意にバックラインを越えるようにボールをプレイすることは許される。
- 13 PSが与えられた時は、17、18、19項に基づき公式試合記録に記載されているプレイヤーがPSの攻撃または守備を行うことができる。
- 14 得点の多いチームが勝者となる。たとえ10名のプレイヤー全員がシュートアウトを終了していなくても、勝敗が決まった時点でシュートアウト戦は打ち切られる。
- 15 シュートアウト戦実施中にイエローカード、レッドカードを提示されたプレイヤーは退場となるが、グリーンカードでは退場とならない。
- 16 シュートアウト戦実施中にイエローカードまたはレッドカードが提示された場合
 - (ア)当該プレイヤーはその後のシュートアウト戦に参加することができず GK または守備を行うプレイヤー以外は交代できない。
 - (イ) GK または守備を行うプレイヤーに対する交代はそのシュートアウト戦に参加している5名の攻撃するプレイヤーの中からのみ許される。交代プレイヤーは交代しようとする GK または守備を行っていたプレイヤーと同様の防具の装着のための適切な時間が与えられる。そのプレイヤーが自分の攻撃を行うときは防具の取り外しに適切な時間が与えられる。その後守備を行うために防具を装着する時にも適切な時間が与えられる。
 - (ウ)退場となったプレイヤーが行うことになっていたシュートアウトは実施されずに無得点とされるが、退場時に既に得

点となっているものについては、有効とする。

- 17 シュートアウト戦実施中に GK または守備するプレイヤーがプレイ不能となった場合は、退場処分となっているプレイヤー以外の公式試合記録に記載されているプレイヤーの中から交代させることができる。交代プレイヤーは交代しようとする GK または守備を行っていたプレイヤーと同様の防具の装着のための適切な時間が与えられる。交代プレイヤーを5名のシューターから選ぶこともでき、その際は自分の攻撃を行うときは防具の取り外しに適切な時間が与えられる。その後守備を行うために防具を装着する時にも適切な時間が与えられる。
- 18 シュートアウト戦実施中にシューターがプレイ不能となった場合は、退場処分となっているプレイヤー以外の公式試合記録に記載されているプレイヤーの中から交代させることができる。
- 19 プレイ不能となり交代されたプレイヤーはそれ以降のシュートアウト戦に参加できない。
- 20 両チーム5名によるシュートアウトが終了した時点でゴール数が同じだった場合は
(ア) 同じプレイヤーにより両チーム5回のシュートアウトを行う第2シリーズを実施する。
(イ) 攻撃を行う順番は第1シリーズと同じでなくてよく、シュートアウトごとに監督が指名する。
(ウ) 先攻と後攻を入れ替える。
(エ) 同数のシュートアウトを行った時、どちらかのチームがゴール数を上回っていた場合はそのチームを勝者としシュートアウト戦は終了する。
- 21 第2シリーズ終了時点でもゴール数が同じであった場合、同じプレイヤーによる両チーム5回の新たなシリーズを行う。
(ア) 攻撃を行う順番は前のシリーズと同じでなくてよく、シュートアウトごとに監督が指名する。
(イ) 先攻と後攻を入れ替える。
- 22 20に定める新たなシリーズ終了時点でもゴール数が同じであった場合は、更に新たなシリーズを繰り返す。その際シリーズ毎に先攻と後攻を入れ替える。
- 23 本規程の規定事項を除き、ホッケー競技規則が適用される
- 24 シュートアウト戦の5回(6人制、インドアの場合は3回)の攻撃を行う各シリーズにおいて、同一人物が2回以上のシュートアウトの攻撃を同一シリーズ内で行った場合(PSは除く)は、2回目以降の攻撃結果は無効とし、失敗と記録される。
- 25 TOは、同一シリーズで同一人物が2回目のシュートアウトの攻撃を行おうとしていると気が付いた場合には、注意を与えることができる。ただし、適正な攻撃順序の遵守はTOでなくチームの監督に責任がある。
- 26 同一シリーズ内に同一人物が2回以上の攻撃を行っていたことを攻撃実施後に相手チームまたは当該競技役員による明確な指摘があった場合には、TOは攻撃結果を失敗に修正する(当該S0が失敗の場合は失敗のまま)。この修正は次のS0が開始されるまで可能とし、次のS0の開始の笛が吹かれた時点で修正することはできなくなる。2回以上の攻撃を行ったS0が成功し、それが勝敗を決定した最後のS0であった場合は、両チームの監督が公式記録用紙にサインを完了する時点まで修正が可能とし、修正する場合は、結果を修正した時点の状態からシュートアウト戦を再開することになる。期限を過ぎてからの上記に関する抗議は受け付けない。

付属書 4 行動規範

- 1 JHA は、日本国内におけるホッケーの試合が公正かつ安全に行われるための大会運営およびホッケーをプレイすることに関するすべての権限を有する。したがってホッケー競技に関わる者は、JHA の定める規程と指示を遵守することに合意するものとする。
- 2 行動規範は JHA が主催または共催する大会および JHA が認定した全試合の参加者に適用される。
- 3 以下が参加者と見なされる。
 - a 参加チームのチームメンバーと役員。これにはプレイヤー、監督、コーチ、テクニカルスタッフを含むコーチングスタッフ、医療担当者が含まれる。
 - b 全ての競技役員。これには JHA 代表、TD、TO、ジャッジ、アンパイアマネージャー、アンパイア、メディア担当者、医療担当者、JHA または実行委員会が指名する役員が含まれる。
 - c 実行委員会委員。
- 4 行動規範は大会に参加する者が、ホッケー競技の安全性の向上と振興のための責任と自覚を持つために制定される。
- 5 すべての参加者は自らの行動と態度に責任を持ち、自らの言動の正当性が説明できなければならない。
- 6 大会に参加するチームのプレイヤーとチームスタッフに必要な指示を行うのは監督の責務である。JHA が定める規程に違反した場合は、プレイヤー、チームスタッフとともに監督も責任を負う。
- 7 大会中の違反行為および JHA が定める規程等に関わる疑義は、大会開催中は TD が対応する。大会の終了後は原則として JHA 技術委員会が対応し、必要に応じて JHA 倫理委員会が審議される。
- 8 JHA は、大会参加者が最高水準の行動と規律を保つよう努めなければならない。
- 9 大会参加者は、競技フィールド上、会場、宿舎で適切に行動しなければならない。ホッケー競技の評判を損なう行為、ホッケー競技への不信を招く行為および不正行為を行ってはならない。
- 10 以下は不適切あるいは許容されない行為と見なされる。
 - a 他の参加者、一般観衆に対する暴言、暴行、敵意
 - b アンパイアの判定や役員の決定に対して挑発的または批判的に、不適切なやり方で論争、抗議、反発すること
 - c アンパイアまたは競技役員に攻撃的な態度で向かって行くこと
 - d 罵りや無礼な発言や身振り
 - e 装備、衣服、会場の施設、備品を乱暴に扱うこと
 - f ドーピング検査官に対する暴言、暴行、敵意
- 11 監督、キャプテン、TD が指名するプレイヤーは、要請に応じてメディアとの会見に出席しなければならない。
- 12 公式発言は適正、建設的で分別があるものでなくてはならない。他のプレイヤー、アンパイア、競技役員や大会実行組織の個人を攻撃する内容であってはならない。
- 13 JHA は公式発言を以下のように定める。

発言の全部、一部または要旨が一般に公表された発言。公表された媒体（新聞、雑誌、定期刊行物、電子刊行物（インターネット、eメール等）、テレビ、ラジオ等）は問わない。
- 14 プレイヤー、チームスタッフはドーピング検査官に対し暴言、暴行、敵意ある行為を行ってはならない。日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が禁止する薬物または薬物関連物質を所持したり、薬物に関する規定を犯したりしてはならない。
- 15 薬物に関する規則により処罰中のプレイヤー、チームスタッフはホッケー競技に関与することはできない。
- 16 大会参加者はいかなる場合においても賭博行為を行ったり、賭博行為を誘導する行為をしたりしてはならない。これにはインターネットを通じた賭博行為、他の大会参加者との賭博行為が含まれる。
- 17 大会参加者は賭博、汚職に関わるいかなる行為も行ってはならない。（試合結果の操作、賄賂の受け取りや誘導、賭博のために内部情報を利用または提供すること等。）

付属書5 行動規範における違反と処罰レベルのガイドライン

レベル1

レベル1の違反に対する処分は、その個人に対する訓戒または（および）最低1試合の出場停止とする。

レベル1の処分対象となる行為の例

- － 他の参加者、一般観衆に対する暴言、敵意
- － アンパイアの判定または競技役員への決定に対する挑発的ないし批判的な論争、抗議、反発
- － 攻撃的な態度でアンパイアまたは競技役員に向かうこと
- － アンパイアの判定に対し過剰なアピールをすること
- － スティックやボールをプレイヤー、アンパイアまたは競技役員への付近へ不適切または危険な方法で投げる
- － プレイ中に他のプレイヤーに対し不適切または意図的な身体的接触をすること
- － 卑猥、攻撃的、侮辱的とされる無礼な発言、罵詈雑言、身ぶり、手振り
- － 不適切な方法でのホッケー装具及び服装の使用、会場の施設や設備の損壊
- － 公的な発言の場で、プレイヤー、アンパイア、役員に関する不公正、非建設的、不適または分別のない発言をすること
- － 要請されたメディアとの会見を欠席すること

レベル2

レベル2の違反に対する処分は、その個人に対する最低2試合の出場停止とする。

レベル2の処分対象となる行為の例

- － アンパイアに対する威嚇ないし攻撃行為
- － 他のプレイヤー、アンパイア、競技役員、観客に対する負傷に至らない暴行
- － フィールド上での暴力行為
- － 人種、宗教、性別、肌色、祖先、国籍、出身民族に関する侮辱、恫喝、侮蔑、中傷の発言または身振り
- － レベル1の処分対象行為のくり返し

レベル3

レベル3の違反に対する処分は、その個人に対する最低5試合の出場停止とする。

レベル3の処分対象となる行為の例

- － 他のプレイヤー、アンパイア、競技役員、観客に対する負傷を伴う暴行
- － レベル2の処分対象行為のくり返し

付属書6 サジェスションアンパイア及びビデオアンパイア

1. サジェスションアンパイア及びビデオアンパイアの概要

- 1.1 サジェスションアンパイア制度とは、両方のゴール付近のフィールド外にサジェスションアンパイアを配置し、アンパイアが下した、又は、下さなかった判定に対しサジェスションアンパイアに助言を求め、参考にすることができる制度である。
- 1.2 ビデオアンパイア制度とは、試合中にリアルタイムでビデオリプレイを確認出来る装置およびビデオアンパイアを配置し、アンパイアが下した、又は、下さなかった判定に対しビデオアンパイアに助言を求め、参考にすることができる制度である。
- 1.3 チャレンジ権とは、試合中のアンパイアに対して、サジェスションアンパイアやビデオアンパイアの助言を参照しアンパイアに判定の再考を要求できる権利をチームに認めることである。
- 1.4 審判員のみがサジェスションアンパイアやビデオアンパイアに助言を求めることができる。このことをリファーラルという。
- 1.5 リファーラルはプレイヤー、チームスタッフの抗議、アピール、圧力によって行われてはならない。規定された手順に基づく要求がなされなければならない。
- 1.6 審判員のみがリファーラルを行うために試合時間を止めることができる。サジェスションアンパイア、ビデオアンパイア、その他の競技役員は時間を止めることはできない。
- 1.7 サジェスションアンパイア制度は、大会規模、会場施設等を考慮した上で採用される日本独自の制度である。

2. 制度を適用する試合

- 2.1 サジェスションアンパイア制度とビデオアンパイア制度を同時に採用することができる。その場合でもチームに与えられるチャレンジ権は1試合に1回であり、リファーラルの場合は、サジェスションアンパイアとビデオアンパイアの両方からのアドバイスを同時に参考にしてアンパイアは判定を行う。
- 2.2 サジェスションアンパイア、ビデオアンパイア制度およびチャレンジ権の採用は大会運営規程またはチーム代表者会議にて事前に通知される。ただし、TDは、天候、施設、要員等の要因により、試合毎に採否を変更する権限を有する。変更する場合は、チームがスターティングリストを提出するまでにチームに通知されるものとする。

3. チームリファーラル（チームのチャレンジコールに基づき行うリファーラル）

- 3.1 チャレンジ権を採用する試合においては、両チームに試合中1回のチャレンジ権を与える。シュートアウト戦においては、シュートアウト戦の前に行われていた試合終了時における両チームのチャレンジ権の保有回数に関係なく、両チームがそれぞれ1回のチャレンジ権を保有した状態で開始する。（回数はリセットされる）
- 3.2 得点、ペナルティストローク、ペナルティコーナーに関わる23mエリア内の判定（または判定しなかったこと）に対してのみチームはチャレンジを行うことができる。シュートアウト戦においては、すべての判定（または判定しなかったこと）を対象にできる。カード提示に対するチャレンジはできない。
- 3.3 フィールド上にいる全てのプレイヤーがチャレンジを行うことができる。ただし、シュートアウト戦の場合は、攻撃または守備を行っているプレイヤーのみとする。（ベンチからのチャレンジは受け付けない。）
- 3.4 チャレンジ権を行使したいプレイヤーは、判定がなされた（または判定されなかった）直後に両手を使って片方の手のひらにもう一方の手の指先をまっすぐのばし「T」の字を作るゼスチャーをアンパイアに示すとともに、「チャレンジ」と発声しなければならない。
- 3.5 「チャレンジ」以外の発声や発声とゼスチャーの両方が伴っていない場合のチャレンジは受け付けない。
- 3.6 「チャレンジ」の発声がアンパイアによって聞き取れなかった場合は、チャレンジは受け付けられない。
- 3.7 チャレンジの対象となる判定（または判定しなかったこと）から時間が経過した後になされたチャレンジは受け付けない。
- 3.8 試合時間外（シュートアウト戦を除く）に行われたチャレンジは受け付けない。ただし、試合時間内にアンパイアがチャレンジを確認した直後にクォーターの規定時間終了のホーンが鳴ったとしても、チャレンジは受け付ける。
- 3.9 アンパイアがチャレンジを受け付ける場合は、試合時間を停止し、「テレビスクリーン」のシグナルの後、T字のシグナルを示すことによりチーム（Team）がチャレンジ権を行使して行うチームリファーラルであることを明確にする。
- 3.10 チャレンジを行うチームの指名する1名のプレイヤーは20秒以内にアンパイアに対してどの判定（または判定しなかったこと）に対し、どのように判定を変更する要求かを明確に伝えなければならない。

- 3.11 20秒以内に明確な内容がアンパイアに伝えられない場合は、当初の判定（または判定されなかったこと）は変更されず、チームのチャレンジ権は喪失する。
- 3.12 アンパイアは、チャレンジの内容を確認した後、当該サイドのサジェスションアンパイアやビデオアンパイアと相手アンパイアにより協議を行う。
- 3.13 サジェスションアンパイアやビデオアンパイアは可能な限り短い時間で以下の助言を行う。
 - ゴールかどうか
 - ペナルティストロークかどうか
 - ペナルティコーナーかどうか
 - シュートアウトリテイク（やり直し）かどうか
 - ノーアドバイス
 - 対象プレイの前後に起こった反則や状況
- 3.14 対象プレイの前後に起こった反則や状況についての助言が行われた場合には、アンパイアは最終的な判定を行う際にそれを考慮する。
- 3.15 ノーアドバイスとは、サジェスションアンパイアの位置から明確に確認できなかつたり、ビデオ映像に判断の根拠となる状況が映っていなかつたり、十分な解像度でなかつたり、機器の問題があり、アンパイアに有効な助言ができない場合を意味し、その場合、アンパイアによって下された当初の判定（または判定をしなかつたこと）がそのまま維持され、チームのチャレンジ権は喪失しない。
- 3.16 チームリファール後に下された判定に対して、相手チームはチャレンジ権を行使することはできない。
- 3.17 協議中にプレイヤーは、アンパイアの付近に近づいてはならない。この違反に対してはカードの提示による個人的罰則が適用される。
- 3.18 チャレンジの対象となった判定（または判定しなかつたこと）の変更の有無に関わらず、アンパイアは最終判定を明確に示さなければならない。また、ノーアドバイスの場合は、両チームにその旨を伝えなければならない。

4. アンパイアリファール（アンパイアが自分で行うリファール）

- 4.1 得点、ペナルティストロークに関わる判定（または判定しなかつたこと）に対して疑義がある場合のみアンパイアは、自分でリファールできる。シュートアウト中においてはすべての事象を対象とできる。
- 4.2 リファールはルールに基づきゴールとなったかどうか、ペナルティストロークがルールに基づき与えられたかどうかについてのみ行われる。
- 4.3 すなわち、アンパイアは以下の場合に、リファールできる。
- 4.4 ボールが完全にゴールラインを超えたか。
- 4.5 ボールがサークルの中で攻撃側のプレイヤーによって正しくプレイされたか、又は、攻撃側のプレイヤーのスティックに触れた後にゴールラインを超えたか。
- 4.6 ペナルティコーナー時に、攻撃側のプレイヤーによるシュートの前に、ボールが完全にサークルの外に出たか。
- 4.7 得点を決めたプレイヤー又はゴールを防いだプレイヤーにより、23m エリア内で判定に関わる反則が行われたか。
- 4.8 守備側のプレイヤーによるサークル内の反則で、そのことによりおそらく入っていたと思われる得点が妨げた又は故意の反則で、攻撃側のプレイヤーが実際にボールを保持したり、保持しようとしていたりしているのを妨げられたか。
- 4.9 アンパイアリファールを行うときは、「テレビスクリーン」のシグナルを示したのちにアンパイア自身の胸に手を当てるシグナルをする。
- 4.10 サジェスションアンパイアやビデオアンパイアは可能な限り短い時間で以下の助言を行う
 - ゴールかどうか
 - ペナルティストロークかどうか
 - ノーアドバイス
 - 対象プレイの前後に起こった反則や状況
- 4.11 対象プレイの前後に起こった反則や状況についての助言が行われた場合には、アンパイアは最終的な判定を行う際にそれを考慮する。
- 4.12 ノーアドバイスとは、サジェスションアンパイアの位置から明確に確認できなかつたり、ビデオ映像に判断の根拠となる状況が映っていなかつたり、十分な解像度でなかつたり、機器の問題があつたりして、アンパイアに有効な助言ができない場合を意味し、その場合、アンパイアによって下された当初の判定（または判定をしなかつたこと）がそのまま維持される。
- 4.13 アンパイアリファール後に判定に対して、チームはチャレンジ権を行使することはできない。
- 4.14 協議中にプレイヤーは、アンパイアの付近に近づいてはならない。この違反に対してはカードの提示による個人的罰則が適用される。

4.15 チャレンジの対象となった判定（または判定しなかったこと）の変更の有無に関わらず、アンパイアは最終判定を明確に示さなければならない。また、ノーアドバイスの場合は、両チームにその旨を伝えなければならない。

5. チャレンジ権の回数

- 5.1 チャレンジ権を採用する試合においては、両チームにそれぞれ1回のチャレンジ権を与える。
- 5.2 チームがチャレンジ権を行使した結果、チームの主張が認められなかった場合は、そのチームはチャレンジ権を喪失する。チームの主張が認められた場合やノーアドバイスの場合は、チャレンジ権は喪失しない。
- 5.3 シュートアウト戦においては、シュートアウト戦の前に行われていた試合終了時における両チームのチャレンジ権の保有回数に関係なく、両チームがそれぞれ1回のチャレンジ権を保有した状態で開始する。
- 5.4 アンパイアは、何回でもアンパイアリファールができる。

6. その他

- 6.1 状況の解釈を含める最終的な判断はアンパイアが行い、サジェスションアンパイア又はビデオアンパイアは判定を下す権限を持たない。
- 6.2 その他の全ての判断はアンパイアが行う。
- 6.3 リファールのために時間が停止されている間は、選手交代できない。協議の結果、ペナルティコーナー以外の判定となった後は選手交代が可能となる。

行動規範 確認書

1. 私は、大会に参加するにあたり、大会に参加するチームの監督として、公益社団法人日本ホッケー協会が定める競技運営規程、倫理規程等の規程および日本アンチ・ドーピング機構が定める日本アンチ・ドーピング規程を確認しました。
2. 私は、私が監督をするチームが大会に参加するにあたり、プレイヤーおよびチームスタッフの全員が公益社団法人日本ホッケー協会の定める競技運営規程、倫理規程等の規程類および日本アンチ・ドーピング機構が定める日本アンチ・ドーピング規程を確認したことに責任を負います。

大会名 : _____

チーム名 : _____

監督署名 : _____

署名日 : 西暦 年 月 日 _____

行動規範 確認書

1. 私は、大会に参加するにあたり、大会のテクニカルデリゲートとして、公益社団法人日本ホッケー協会が定める競技運営規程、倫理規程等の規程および日本アンチ・ドーピング機構が定める日本アンチ・ドーピング規程を確認しました。
2. 私は、大会競技役員の全員が公益社団法人日本ホッケー協会が定める競技運営規程、倫理規程等の規程および日本アンチ・ドーピング機構が定める日本アンチ・ドーピング規程を確認したことに責任を負います。

大会名 : _____

TD名 : _____

TD署名 : _____

署名日 : 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日

公認競技役員規程

2016年4月1日制定

2020年4月1日改訂

(4次改訂)

公益社団法人 日本ホッケー協会

主要変更箇所(2020.4)

(目的)

第1条 この規程は、公益社団法人日本ホッケー協会（以下「JHA」という）が認定する競技役員（以下「競技役員」という）の地位の確立と責任の範囲の明確化を目指すとともに、技能向上や円滑な大会運営を図るために必要な事項を定めることを目的とする。

(用語の定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

1. 公認競技役員 第3条によって区分される資格を有する者をいう。
2. 公式試合 JHA、ブロック協会、都道府県協会、ホッケージャパンリーグ、日本社会人ホッケー連盟、日本学生ホッケー連盟およびその傘下団体のブロック学生連盟、全国高等学校体育連盟およびその傘下団体のブロック・都道府県高等学校体育連盟が主催または共催する大会でホッケー競技規則（6人制含む）に基づき実施される試合をいう。
3. 全国大会 JHAが主催または共催する大会。

(公認競技役員資格の種類)

第3条 公認競技役員資格は、その活動範囲、必要な資質・技能に応じて次のとおり設置する。

1. テクニカルデリゲート（以下「TD」という）
2. テクニカルオフィサー（以下「TO」という）
3. ジャッジ（以下「JG」という）
4. アンパイアマネージャー（以下「UM」という）
5. 国際審判員
6. A級公認審判員（以下「A級」という）
7. B級公認審判員（以下「B級」という）
8. C級公認審判員（以下「C級」という）
9. D級公認審判員（以下「D級」という）
10. サジェスションアンパイア
11. ビデオアンパイア
12. インドア公認審判員（以下「IU」という）

なお、上記1から3までを公認テーブルオフィシャル、5から12までを公認審判員と総称する。また、公認競技役員は必ずどこかの都道府県協会に所属し、所属協会は、居住地または勤務地の位置する都道府県協会か都道府県協会の役員である場合はその協会とする。

(公認競技役員の資質)

第4条 公認競技役員資格を有する者に求められる資質を次のように定める。

1. TDは、競技会の運営・競技運営規程・競技規則・審判に関する知識を熟知し、競技会を統括する見識・技能を有し、公認競技役員（以下「競技役員」という）の模範となり指導を行い得る見識・技能を有する者。
2. TOは、競技会の運営・競技運営規程、競技規則・審判に関する知識がありTDを補佐する見識・技能を有し、試合を円滑に運営、管理するための十分な見識、技能を有する者。
3. JGは、大会の競技運営規程、競技規則に関する見識を有し、公式試合記録の作成およびTOと協力し試合の運営、管理を行い得る者。
4. UMは、大会およびホッケーに係わる活動を通じて、審判員の育成指導、評価、支援を行い得る見識、技能を有し、競技規則およびその解釈に対する解明が行える者。
5. 国際審判員は、公認審判員の資格を有する者のうち、国際ホッケー連盟（以下「FIH」という）により国際審判員資格を認定された者。
6. A級は、国際試合の審判を行い得る見識、技能を有し、公認審判員の模範となり得る者。
7. B級は、全国大会の試合の審判を行うに十分な見識、技能を有する者。
8. C級は、公式試合の審判を円滑に行うための必要な知識、技術を有する者。
9. D級は、公式試合の審判を行い得る者。
10. サジェスションアンパイアは、公式試合のサジェスションアンパイアを行うに十分な見識、技能を有する者。
11. ビデオアンパイアは、公式試合のビデオアンパイアを行うに十分な見識、技能を有する者。
12. インドア審判員は、インドアホッケーの公式試合の審判を行い得る者。

(公認競技役員に係わる役職の権限と責任)

第5条 公認競技役員に関する活動に係る役職の権限と責任は、次のとおりとする。

1. JHA 技術委員長は、公認競技役員を統括する。また、公認競技役員の実活動環境の向上、技能向上、国内外への競技役員への派遣、関係規則の制定・定着等に係わる活動を監督し、そのための必要な指示を公認競技役員に行う。
2. JHA 競技部長は、公認テーブルオフィシャルの技能向上、活動実績管理、活動者数の増加および競技会運営の円滑化等に資する必要な施策を策定し、ブロック競技長と共に実行する。
3. JHA 審判部長は、公認審判員の技能向上、活動実績管理、活動者数の増加および競技規則・判定に係わる解釈の浸透等に資する必要な施策を策定し、ブロック審判長と共に実行する。
4. JHA 競技役員指名室長は、全国大会に参加する競技役員を指名する。また、国民体育大会ブロック大会の TD、UM、ニュートラル審判員（ブロック外から派遣）を指名し、表-1のブロック予選会におけるブロックが指名する TD、ニュートラル競技役員（TO、JG、審判員）の通知を受ける。
5. JHA 資格審査室は、講習会等の受講者の成績、実績を踏まえて第3条に定める資格を認定または承認する。また、第16条に定める降格、失効、剥奪、停止を決定する。
6. ブロック競技長は、所属ブロック内の公認テーブルオフィシャルへの指導、情報伝達、活動実績の把握、TO昇格試験受験者の推薦、JG資格の認定、ブロック予選会（表-1）のTD、TO、JGの指名（JHAが指名した者を除く）、競技役員への発掘、その他JHA競技部長の依頼する事項を遂行する。ブロック予選会（表-1）において、所属ブロック外からTO、JGを指名する場合は、競技役員指名室長に通知する。
7. ブロック審判長は、所属ブロック内の公認審判員への指導、情報伝達、活動実績の把握、B級昇格試験受験者の推薦、C級・D級資格の認定、ブロック予選会（表-1）の審判員の指名（JHAが指名した者を除く）、審判員の発掘、その他JHA審判部長の依頼する事項を遂行する。ブロック予選会（表-1）において、所属ブロック外からUM、審判員を指名する場合は、競技役員指名室長に通知する。
8. 都道府県競技長は、所属都道府県内の公認テーブルオフィシャルへの指導、都道府県内大会のTD、TO、JGの指名、競技運営役員の発掘、その他ブロック競技長の依頼する事項を行う。
9. 都道府県審判長は、所属都道府県内の公認審判員への指導、C級昇格試験受験者の推薦、都道府県内大会の審判員の指名、審判員の発掘、その他ブロック審判長の依頼する事項を行う。
10. 上記6から9に定める役職は、ブロックまたは都道府県内の理事会等の承認手続きを経て決定されることが望ましい。
11. 上記6から9に定める役職者が交代する場合は、速やかにJHA技術委員長に通知しなければならない。また、その役職者の本規程に定める権限は、通知された時点から効力を有する。
12. 上記2から9に定める役職者（5を除く）の本規程に定める権限は、当該役職者がいずれかの競技役員資格を保有している場合に効力を有する。

(公認競技役員の実務)

第6条 公認競技役員に求められる主な実務を次のとおり定める。

1. 本規程に定める事項を遵守しなければならない。
2. 公式試合への参加に際しては、移動中も含め、定められた服装もしくは職務にふさわしい服を着用し、登録証を携帯しなければならない。審判を行うときは公認審判服を着用しなければならない。
3. TDは、大会のTD（アシスタントTD含む）、ホッケー日本リーグ（以下「HJL」という）のシリーズチーフTOを3年間に1回以上担当しなければならない。または、公式試合のTOまたはJGを3年間に8試合以上担当しなければならない。
4. TOおよびJGは、公式試合のTOまたはJGを3年間に8試合以上担当しなければならない。
5. A級は全国大会の試合の審判を3年間に6試合以上担当しなければならない。
6. B級は全国大会、表-1に定めるブロック予選会、日本社会人ホッケー連盟、日本学生ホッケー連盟およびその傘下団体のブロック学生連盟が主催する大会の試合の審判を3年間に6試合以上担当しなければならない。
7. C級は公式試合の審判を3年間に6試合以上担当しなければならない。
8. TD、UM、A級は、第18条に定める講習会を毎年受講しなければならない。TO、JG、B級、C級、D級は、第18条に定める講習会を3年に1回以上受講しなければならない。
9. TD、TO、UM、A級、B級は、年度当初の指定期日までに大会派遣希望調査に回答しなければならない。また、JHAの求めに応じて活動実績を報告しなければならない。
10. A級、B級はJHAが指定する体力測定を毎年1回以上実施しなければならない。
11. 国際公式試合の競技役員を担当する場合は、事前にJHA技術委員長の承認を得なければならない。

12. 全国大会でTD またはUM に指名された者は、所定期日内に大会報告書を JHA に提出しなければならない。
13. 公認競技役員は、JHA の指定する活動に協力しなければならない。
14. 公認競技役員は、競技会場において受動喫煙が生じないように細心の注意を払わなければならない。

(公認競技役員の活動可能範囲)

第7条 公認競技役員の活動を行うことができる範囲は次のとおりとする。

1. TD は、公式試合が行われる大会の TD を担当できる。
2. T0 は、公式試合の T0 を担当できる。また、所属ブロック競技長の指名または承認により全国大会以外の大会の TD を担当できる。
3. JG は、公式試合の JG を担当できる。また、全国大会以外の試合の T0 を担当できる。6 人制の試合においては、全国大会の T0 を担当できる。
4. A 級は、公式試合および JHA 技術委員長承認により国際試合の審判を担当できる。また、公式試合の JG、T0 を担当できる。さらに、取得後 10 年以上経過した者は、所属ブロック審判長の指名または承認により全国大会以外の UM を担当出来る。
5. B 級は、公式試合および JHA 審判部長の推薦と JHA 技術委員長承認により国際試合の審判を担当できる。また、公式試合の JG を担当できる。
6. C 級は、全国大会以外の公式試合の審判を担当できる。ただし、所属ブロック以外の場所で行われる試合の場合は、所属ブロック審判長の承認を要する。
7. D 級は、全国大会および表-1 に定めるブロック大会以外の公式試合の審判を担当できる。ただし、所属ブロック以外の場所で行われる試合の場合は、所属ブロック長の承認を要する。
8. サジェスションアンパイアは公式試合のサジェスションアンパイアを担当できる。
9. ビデオアンパイアは公式試合のビデオアンパイアを担当できる。
10. IU はインドアホッケーの公式試合の審判を担当できる。
11. 大会に参加するチームに登録されている役員、選手は所属するチームの試合の競技役員（JG を除く）を担当することができない。
12. 上項にかかわらず、6 人制およびインドアホッケーの試合では全国大会含むすべての公式試合で C 級および D 級が審判を担当できる。
13. 上項にかかわらず、マスターズ（40 歳以上）の公式試合では C 級および D 級が審判を担当できる。
14. 上項にかかわらず、講習会または昇格試験受講中の競技役員は保有資格に関わらず大会 TD の指名する業務を担当できる。
15. 上項にかかわらず、日本国外から派遣された日本国籍を持たない競技役員は、技術委員長と大会 TD の承認により公式試合の競技役員業務を担当できる。

(公認競技役員の認定手順)

第8条 公認競技役員資格の認定は、次のとおりとする。

1. (TD) T0 資格を有し、全国大会で十分な実績があり、JHA 技術委員会が指名した者は、表-1 の大会において TD を担当し、技術委員会の指定講師の審査により TD としての資質が認められるとして上申された者を資格審査室で審議して TD として認定する。
2. (T0) JG の資格を有し、全国大会およびブロック大会で実績がある者で所属ブロック競技長の推薦により T0 昇格試験を受験し、その合格者で T0 としての資質が認められるとして上申された者を資格審査室で審議して T0 として認定する。
3. (JG) 所属都道府県協会の競技長の推薦により、ブロックまたは都道府県協会が主催するジャッジ認定講習会に参加した者でブロック競技長が認定した者を JHA 資格審査室が JG として承認する。講習会の責任講師は、技術委員会の指名する講師でなければならない。講習会の開催について事前にブロック競技長の承認を得なければならない。
4. (国際審判員) 技術委員長の指名により FIH 主催または公認の国際大会に審判員として派遣され、国際審判員としての資質があるとの評価を TD から受けた者は、資格審査室の承認により JHA から FIH に国際審判員登録申請を行う。FIH で国際審判員として登録された時点で国際審判員として認定する。
5. (UM) A 級または B 級で（過去に A 級または B 級資格を有していた者も含む）JHA 審判部長の指名により UM 認定講習会に参加し、UM としての資質が認められるとして上申された者を資格審査室で審議して UM として認定する。
6. (A 級) JHA が公表する A 級審判員昇格候補者リストの中から指名され、JHA が開催する A 級昇格審判講習会に参加

- し、その審査により A 級審判員としての資質が認められるとして上申された者を資格審査室で審議して A 級として認定する。
7. (B 級) C 級保有者でブロック審判長の推薦により JHA、各ブロック協会、各連盟が開催する B 級審判昇格試験を受験しその合格者で B 級審判員としての資質が認められるとして上申された者を資格審査室で審議して B 級として認定する。試験の責任講師は技術委員会が指名する講師でなければならない。講習会の開催について事前に技術委員長の承認を得なければならない。
 8. (C 級) D 級保有者で、ブロック審判長または都道府県審判長の推薦により各ブロック協会、各連盟が開催する C 級審判昇格試験を受験し、その合格者を所属ブロック審判長が認定した者を資格審査室が C 級として承認する。試験の責任講師は、技術委員会の指名する講師でなければならない。講習会の開催について事前に技術委員長の承認を得なければならない。
 9. (D 級) 各ブロック協会、各連盟、都道府県協会が開催する D 級審判認定講習会を受講した者で、所属ブロック審判長が認定した者を資格審査室が承認する。講習会の責任講師は、技術委員会の指名する講師でなければならない。講習会の開催について事前にブロック審判長の承認を得なければならない。
 10. (サジェスションアンパイア) A 級、B 級、C 級、UM 資格保有者は、サジェスションアンパイアの資格を同時に保有するものとする。過去に A 級、B 級、C 級資格を保有していた者で何らかの公認競技役員資格を保有している者は、サジェスションアンパイアの資格を同時に保有する。
 11. (ビデオアンパイア) A 級、B 級、C 級、UM 資格保有者は、ビデオアンパイアの資格を同時に保有する。過去に A 級、B 級、C 級資格を保有していた者で何らかの公認競技役員資格を保有している者は、ビデオアンパイアの資格を同時に保有する。
 12. (IU) A 級、B 級、C 級、D 級資格保有者は、インドア審判員の資格を同時に保有する。
 - ~~13. A 級および B 級資格保有者は、JG 資格に定める範囲の活動を行うことができる。~~
 13. A 級は引退する時点(自己申告)で、T0 講習会の受講資格を資格審査室で審議のうえ付与する。認定にあたり、上記の講習会等の受講を要しない。
 14. A 級、B 級は引退する時点(自己申告)で、JG 資格を資格審査室で審議のうえ認定する。認定にあたり、上記の講習会等の受講を要しない。
 15. 審判員資格の認定にあたり、被認定者が未成年の場合は、親権者の同意書を必要とする。また、18 歳未満の者には審判員資格を認定しない。

(公認競技役員認定証)

第 9 条 第 8 条に定める公認競技役員に認定され、第 11 条に定める登録手続きを完了した者に JHA から認定証を交付する。ただし、JG については、所属ブロック競技長から、C 級、D 級については所属ブロック審判長から認定証を交付する。

(公認競技役員登録証、管理)

第 10 条 新規に取得した資格の登録が完了した者に JHA から登録証を交付する。登録または更新の際に JHA に通知された個人に関わる情報は、JHA の円滑な運営を目的としてのみ利用される。目的の範囲内で業務委託先に提供する場合および日本国内の法令に基づく場合を除き JHA は個人情報第三者に開示・提供しない。公認競技役員は、登録情報を変更する場合は、JHA に速やかに通知しなければならない。公認競技役員が所属協会を変更する場合は、JHA 技術委員長の承認を得なければならない。

(登録手続き)

第 11 条 公認競技役員の新規登録手続きについては、次のように行う。

1. TD、T0、UM、A 級、B 級資格の登録手続き
資格審査室での認定後、JHA から本人に認定の通知を行う。認定者は指定期間内に新規登録申請書を JHA に提出し、認定料を納入しなければならない。資格審査室で認定された日を登録日とするが、指定期間内に提出および納入がなされない場合は、認定を取り消す。
2. JG、C 級資格の登録手続き
所属ブロック競技長または審判長が認定した JG、C 級資格者の JHA への新規登録申請は所属ブロック長が行う。システムへの新規登録は JHA が行い、登録完了後に認定者に送付される案内に従い認定者本人が認定料を納付する。所属ブロック競技長または審判長が行う。申請がなされた日を登録日とするが、合格した講習会の開催日から 60 日以内に新規登録申請書が JHA に提出され、所定の認定料が JHA に納付されなければ、JHA 資格審査室は認定を承認

せず、認定は無効となる。何らかの理由で、JHA 資格審査室が認定を承認しなかった場合は、認定は無効となり、既に JHA に納入されている認定料があればそれを返還する。

3. D 級資格の登録手続き

所属ブロック審判長は資格の認定後、JHA に D 級資格者名簿を JHA に送付する。送付日を資格の登録日とする。システムへの新規登録は JHA が行い、登録完了後に認定者に送付される案内に従い認定者本人が認定料を納付する。何らかの理由で、JHA 資格審査室が認定を承認しなかった場合は、認定は無効となる。

4. 登録番号の付与

サジェスションアンパイア・ビデオアンパイア、IU 以外の資格については、JHA が申請書に基づき、登録番号を付与し、システム内のデータベース基本台帳を更新する。また、氏名と所属協会名を記載した公認競技役員一覧を更新しブロック競技長および審判長に送付する。

5. 認定料

各資格の新規認定料の金額は表-2 のとおりとする。

6. 配付物

各資格認定時に次に定めるものを JHA より配付する。エンブレム、カード、リング等の資格に応じた必要物品は、各自で購入する。

TD : TD バッジ

TO : TO バッジ

JG : JG バッジ

A 級 : A 級 バッジ

B 級 : B 級 バッジ

C 級 : C 級 バッジ

(有効期間と更新手続き)

第 12 条 公認競技役員の有効期間と年度登録（更新手続き）を次のように定める。

1. 競技役員資格の有効期間は毎年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。ただし、新規登録された資格は、登録日から次の 3 月 31 日までとする。
2. 競技役員資格は毎年度自動更新とし、更新を希望しない者は前年度 2 月末日までに JHA に申請しなければならない。ただし、D 級については、所属ブロック審判長に申請する。
3. ブロック競技長および審判長は、都道府県競技長、審判長と連携して所属ブロックの公認競技役員の資格保有者リストの確認、修正を行い、必要に応じて JHA に通知しなければならない。
4. 競技役員は指定された期間内に定められた方法で所属都道府県協会を通じて更新手続きを行わなければならない。
5. 年度登録料は表-3 のとおりとする。複数の資格を保有している者は、それらのうち最も高額な年度登録料のみを JHA に納入すればよい。D 級の年度登録料は JHA が受領した金額を年度末に一括してそれぞれの所属するブロック協会に配賦する。配賦金はブロック内の競技役員にかかわる育成等の活動に利用されることが望ましい。第 15 条 4 項に該当する場合の年度登録料は免除するが、停止が解除された時点で該当する登録料を納入する。

(資格の失効および剥奪)

第 13 条 公認競技役員は、次に該当するときにはその資格を喪失する。既に納入されている登録料は返還しない。

1. 第 12 条に規定する年度登録料を納入しなかった場合は、資格が失効する。
2. 公認競技役員として著しく不適切な行動や言動があった場合は、資格を剥奪する。
3. 本規程を著しく逸脱する行動や言動があった場合は、資格を剥奪する。

(降 格)

第 14 条 公認競技役員は、次に該当するときには降格する場合がある。ただし、JG および D 級は降格しない。既に納入されている登録料は減額しない。

1. 第 6 条に規定する活動を行う意思が認められないとき。
2. 第 6 条に規定する研修会を理由無く受講しなかったとき。
3. 各資格で必要とする見識、技能を有していないと認められたとき。

(資格の停止)

第15条 公認競技役員は、次に該当するときにはその資格の効力の一部または全部を期間を定めて停止する場合がある。既に納入されている登録料は減額しない。

1. 公認競技役員として不適切な行動や言動があった場合。
2. 本規程を逸脱する行動や言動があった場合
3. 競技会等において故意または重大な過失により円滑な運営を著しく妨げた場合。
4. 海外赴任や長期療養等の事情により本人より活動休止の申し出であった場合。最長で3年間とする。

(資格の失効および剥奪、降格、停止手続き)

第16条 資格の降格および剥奪、失効、停止は、次のように行う。

1. 第13条、第14条、第15条に該当すると認められる場合は、技術委員会で審議のうえ資格の失効または剥奪、降格、停止の仮決定を行う。
2. 技術委員会は仮決定の内容を当該者に通知して状況を確認し、本人が希望する場合は、弁明の機会を設ける。
3. 前項において、海外駐在等やむを得ない事由等を勘案して技術委員会は仮決定内容を変更または取消することができる。
4. 第2項を実施後、技術委員長は資格審査室にその内容を諮問する。資格審査室で審議を行い、資格の失効または剥奪、降格、停止を決定する。
5. 技術委員会は決定後に本人および所属ブロック競技長、審判長にその内容を通知する。
6. 資格を失効させた者が再度競技役員資格を取得しようとする場合は、それまでの実績は喪失されたものとして扱う。

(公認競技役員の定年)

第17条 公認競技役員の定年および定年者の定年後の活動範囲等については次のとおり定める。

1. ~~競技役員資格に定年制度は採用しない。75歳の誕生日に達した時の年度末(3月31日)をもって定年とし、定年者として扱う。~~
2. ~~公認テーブルオフィシャル及び審判引退者が定年前に引退をJHAに通知した場合は、その時点で定年者として扱い同じ扱いとし、資格は無効となる。~~
3. ~~A級またはB級が引退をJHAに通知した場合は、その時点でその資格は無効となり、審判引退者として扱う。~~
2. 51歳以上の公認審判員が表-5に定める体力基準を達成できない場合は、第7条に定める審判員としての活動を行うことはできず、引退者として扱う。資格は無効となり、審判引退者として扱う。
3. 定年者または上項にかかわらず審判引退者は、大会TDの承認により全国大会を含む6人制の試合のTO・JGまたは審判を担当することができる。また、マスターズ(40歳以上)の試合の審判を担当できる。
5. ~~定年者は、大会TDの承認により全国大会以外の試合のTO・JGを担当することができる。~~
4. 審判引退者は、大会TDの承認により全国大会以外の試合の審判を担当できる。ただし、表-1に定める大会の試合の場合は、JHA審判部長の承認を要する。
5. 審判引退者は、全国大会を含むすべての試合のサジェスションアンパイア、ビデオアンパイアを担当できる。
8. ~~定年者が上項の活動を行う場合は、第11条に定める定年者の年度登録料を納入していなければならない。~~

(講習会等の実施)

第18条 公認競技役員は競技規則、競技運営規程に関する知識、解釈、技能向上を図るために実施される講習会等に積極的に参加しなければならない。実施される講習会と受講料は表-4のとおりとする。

(その他)

第19条 この規程に定めるもののほか必要な事項については、JHA技術委員会が関係箇所と協議のうえ決定する。

1. 公認競技役員は、この規程に関わる事項に疑義が生じた場合に技術委員長へ照会を行うことができる。

(附 則)

1. この規程は、公認TD・TO・J規程と公認審判員規程を統合し、2016年4月1日から施行する。それに伴い、公認

TD・TO・J 規程と公認審判員規程は廃止する。

2. この規程は、2017年4月1日に改訂する。
3. 規程変更の移行措置として、2016年4月1日より2017年3月31日までにD級登録された資格の有効期限は、2018年3月31日とし、2017年度の年度登録料（更新）は免除する。
4. この規程は、2018年4月1日に改訂する。
5. この規程は、2019年4月1日に改訂する。
6. この規程は、2020年4月1日に改訂する。
7. 定年制度廃止の移行措置として、2020年3月31日現在に登録されている定年者の年度登録料は3,000円として変更しない。

表－1 全国大会ブロック予選会

全国高等学校ホッケー選手権大会ブロック予選
全日本中学生ホッケー選手権大会ブロック予選
全日本社会人ホッケー選手権大会ブロック予選
国民体育大会ホッケー競技ブロック大会
全国高等学校選抜ホッケー大会ブロック予選

表－2 認定料

資格	認定料(円)
TD	5,000
TO	4,000
JG	3,000
UM	5,000
A級	5,000
B級	4,000
C級	3,000
D級	2,000

表－3 年度登録料（更新時）

資格	年度登録料(円)	資格	年度登録料(円)
TD	5,000	UM	5,000
TO	4,000	A級	5,000
JG	3,000	B級	4,000
		C級	3,000
定年者	3,000	D級	2,000

表－4 講習会および受講料

講習会名等	受講料(円)	備考	講習会名等	受講料(円)	備考
1. JHAが主催するもの			2. ブロック協会、各競技連盟が主催するもの		
全国統一ルール研修会	5,000	JHAに納入	ルール研修会	5,000	主催者に納入
TD昇格試験	5,000	JHAに納入	JG認定講習会	3,000	主催者に納入
TO昇格試験	5,000	JHAに納入	B級審判昇格試験	5,000	主催者に納入
UM認定講習会	5,000	JHAに納入	C級審判昇格試験	3,000	主催者に納入
A級審判昇格試験	5,000	JHAに納入	D級審判昇格試験	3,000	主催者に納入
B級審判昇格試験	5,000	JHAに納入	必要に応じた技能向上のための講習会	主催者が決定	主催者に納入
必要に応じた技能向上のための講習会	都度決定	JHAに納入	3. 都道府県協会が主催するもの		
			D級審判昇格試験	3,000	主催者に納入
			JG認定講習会	3,000	主催者に納入
			必要に応じた技能向上のための講習会	主催者が決定	主催者に納入

表－5 審判員体力測定項目と基準（20mシャトルラン）

年齢・性別	往復回数	年齢・性別	往復回数
29歳以下男子	84（レベル10）	29歳以下女子	73（レベル9）
30歳代男子	73（レベル9）	30歳代女子	62（レベル8）
40歳以上男子	62（レベル8）	40歳以上女子	52（レベル7）

上記は最低限求められる基準であり、84回を上回ることを強く要請する。

各ブロック・都道府県ホッケー協会競技長・審判長一覧（2019年10月29日現在）

【競技長】				【審判長】			
所属協会	氏名	所属協会	氏名	所属協会	氏名	所属協会	氏名
北海道	手倉森 勇夫	北信越	松原 和朗	北信越	宮川 敏充	中国	藤原 真由美
東北	杉原 広	長野	柴田 稔	長野	柏木 健	鳥取	松田 真一
青森	杉原 広	新潟	蒲沢 光昭	新潟	斎藤 靖	島根	藤原 真由美
岩手	柵山 文夫	富山	武部 直美	富山	細川 祐司	岡山	元宗 宏寿
宮城	鈴木 隆之	石川	松本 豊成	石川	倉脇 寛支	広島	中元 大輔
秋田	佐々木 和彦	福井	栗原 和世	福井	宮川 敏充	山口	木村 考利
山形	横山 伸一	東海	渡邊 希一	東海	重森 誠	四国	柳田 敏行
福島	酒井 強	静岡	渡邊 希一	静岡	戸塚 洋介	香川	片平 久光
関東	清水 恭子	愛知	辻 幹彦	愛知	加藤 知明	徳島	柳田 敏行
茨城	高橋 忠織	三重	浅野 一生	三重	節句田 悟	愛媛	中村 英貴
栃木	関根 由美子	岐阜	大野 壮太	岐阜	藤原 信幸	高知	池田 徹也
群馬	酒井 忠	関西	西松 孝治	関西	小原 直也	九州	富山 喜正
埼玉	鯨井 暢	滋賀	松下 正寿	滋賀	高橋 英行	福岡	瓜生 幸宏
千葉	久保木 学	京都	久木 寿一	京都	西山 宏明	佐賀	近藤 芳樹
東京	西澤 英一郎	大阪	今庄 充世	大阪	壽山 由樹	長崎	永山 至道
神奈川	市村 美幸	兵庫	斎 好男	兵庫	竹内 高広	熊本	松崎 光太郎
山梨	栢原 伸幸	奈良	我妻 活美	奈良	松本 栄次	大分	川野 伸久
		和歌山	喜多 英登	和歌山	中尾 年博	宮崎	福山 秀人
						鹿児島	山内 孝雄
						沖縄	與那嶺 俊

ユニフォーム規程

2016年4月1日制定

2020年4月1日改訂

(第4次改訂)

公益社団法人 日本ホッケー協会

主要変更箇所(2020.4)

序文 目的

本規程は、公益社団法人日本ホッケー協会（以下「JHA」という）が主催または共催する大会に参加するチームのユニフォームに関する基準を定めるものである。

1. ユニフォーム登録

- 1.1 大会に参加するチームは、ファーストユニフォームおよびセカンドユニフォームとしてのフィールドプレイヤーのシャツ、パンツ/スコート、ソックスとゴールキーパーのシャツの色を大会参加申込書にて登録しなければならない。大会期間中はユニフォームの色柄を変更することができない。

2. フィールドプレイヤーのユニフォーム

- 2.1 ファーストおよびセカンドユニフォームのうちのひとつのセットは、シャツ、パンツ/スコート、ソックスそれぞれの80%以上が単色でなければならない、もうひとつのセットは他のセットとは全く違う色でなくてはならない。大会参加にあたり登録したファーストおよびセカンドユニフォームの色が以ていとTDにより判断された場合は、TDはチームに対しユニフォームの色を変更させることができる。そのため、判断に迷う場合は、事前にJHA技術委員長または大会TDに確認を取っておくことを推奨する。
- 2.2 ソックスの色は、2.1の条件を満たす限り、何色でも良い。ただし、膝にかかるように着用することは認められない。
- 2.3 背番号は、はっきりと塗り潰された（輪郭線でない）数字で次の2か所に明示する。
 - a 上下16cm以上、30cm以下の文字でプレイヤーのシャツの背面。
 - b 上下7cm以上、9cm以下の文字でプレイヤーパンツ/スコートの前面で太ももの高さ。
- 2.4 プレイヤーの名前を表示する場合、プレイヤーの名前は、
 - a シャツの背面に表示されていること（~~ゴールキーパー特権を有するフィールドプレイヤーとして出場している場合を除く~~）
 - b はっきりと塗り潰された（輪郭線でない）上下が6cm以上、10cm以下の文字であること
 - c プレイヤーの背番号より上に配置し、背番号が明瞭に見えるようにすること
- 2.5 ユニフォームの袖の長さ、襟の有無の制限はないが、試合を通じて全員が同じ仕様のユニフォームを着用しなければならない。厳寒期には長袖、半袖、袖無しユニフォームの選手が混在していても良いが、事前にTDの承認を要する。
- 2.6 ロングアンダースパッツ、~~ユニフォームの袖からはみ出るアンダーシャツは着用してはならない。ただし、ユニフォームの内側で外面から見えない範囲に着用するものや、立った姿勢でスコートの下に外面から見えない範囲で着用しているアンダースパッツは着用してもよい。スコートの下にアンダースパッツを着用する場合は、全員が同じ素材で同色のものを着用しなければならないが、スコートと同色である必要はない。~~
- 2.7 厳寒期には、ユニフォームの袖からはみ出るアンダーシャツを着用してよいが、着用する場合は、選手全員が同じ仕様のものを着用しなければならない。着用と非着用の選手が混在していても良い。着用にあたっては、事前に大会TDの承認を要する。
- 2.8 襟元や袖口からはみ出てユニフォームの原型を変えるような下着・インナーウェアは着用してはならない。
- 2.9 上項に関わらず、宗教上および医師の指示による健康上の理由による着用物に制限はないが、事前にTDの承認を必要とする。

3. フィールドプレイヤーの装具

- 3.1 ~~フィールドプレイヤーは、ソックスの下にすねあてを試合中常時着用しなければならない。~~
- 3.2 ~~フィールドプレイヤーは、ユニフォームの下に防具を装着してもよい。膝あてはソックスの外側に装着してもよい。~~

4. ゴールキーパーのユニフォーム

- 4.1 ファーストおよびセカンドユニフォームのシャツは、フィールドプレイヤーのファーストおよびセカンドユニフォームのシャツの色と全く違う色でなくてはならない。
- 4.2 背番号は、はっきりと塗り潰された（輪郭線でない）数字で次の2か所に明示する。
 - a 上下16cm以上、30cm以下の文字でシャツの背面。
 - b 上下7cm以上、20cm以下の文字でシャツの前面。
- 4.3 プレイヤーの名前を表示する場合、プレイヤーの名前は、
 - a シャツの背面に表示されていること
 - b はっきりと塗り潰された（輪郭線でない）上下が6cm以上、10cm以下の文字であること
 - c プレイヤーの背番号より上に配置し、背番号が明瞭に見えるようにすること。

5. シューズの色

- 5.1 シューズの色は何色でも良い。

6. ゴールキーパーの装具の色

- 6.1 ゴールキーパーの装具の色は何色でも良い。

7. 大会主催者が希望する広告

- 7.1 大会主催者は、大会に参加するプレイヤーのユニフォームに広告を表示させる権利を有し、その要請があった場合は、チームはユニフォームの指定の位置に広告を貼付しなければならない。貼付する広告は、主催者がチームに無償で提供する。

8. チームが希望する広告

- 8.1 大会開始日の3日前までに表示する広告の図柄、大きさ、位置を主催者に申請しなければならない。
- 8.2 アルコール類およびたばこ商品名の広告は許可されない。
- 8.3 主催者は、公序良得に反する場合や大会スポンサーに競合する等の理由により、申請を却下することができる。
- 8.4 主催者は、許可にあたり広告の大きさ、位置を変更する権利を有する。
- 8.5 広告の表示が認められた場合、チームは、広告1か所につき10,000円をJHAに納入しなければならない。

9. 競技役員ウェアへの広告

- 9.1 大会主催者は、大会に参加する競技役員の公式ウェア（アンパイアシャツ、大会ジャンパー等）に広告を表示させる権利を有する。

10. 大会協賛広告

- 10.1 大会に参加する競技役員の公式ウェア（アンパイアシャツ、大会ジャンパー等）に広告を提供し、表示させることを、誰でも希望することができる。その場合は、以下に基づき主催者に申請を行わなければならない。
- 10.2 大会開始15日前までに、表示する広告の図柄、大きさ、表示させるウェアおよび位置を主催者に申請しなければならない。
- 10.3 アルコール類およびたばこ商品名の広告は許可されない。
- 10.4 主催者は、公序良得に反する場合や大会スポンサーに競合する等の理由により、申請を却下することができる。
- 10.5 主催者は、許可にあたり広告の大きさ、位置を変更する権利を有する。
- 10.6 広告の表示が認められた場合、申請者は、広告1か所につき50,000円をJHA特別協賛金として納入しなければならない。金額はJHAとの協議により変更することができる。また、表示する広告を主催者に無償で提供しなければならない。広告の表示（貼付）に係わる費用は原則として申請者が負担する。
- 10.7 大会主催者は、大会に参加する競技役員の公式ウェア（アンパイアシャツ、大会ジャンパー等）に広告を表示させる権利を有するが、アルコール類およびたばこ商品名の広告は表示できない。

11. 本規程に係わる疑義および定めのない事項は、JHA技術委員長が関係機関と協議のうえ決定する。

12. 本規程は、2016年4月1日より効力を有する。それに伴い、JHAユニフォーム基準、登録規程のユニフォームに係わる規定を廃止する。

改訂履歴

- 2017年4月1日改訂
- 2018年4月1日改訂
- 2019年4月1日改訂
- 2020年4月1日改訂

スポーツ関係団体の受動喫煙防止対策に関するアンケート調査の結果について

公益財団法人日本スポーツ協会
公益財団法人日本オリンピック委員会
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
公益財団法人日本プロスポーツ協会
一般社団法人日本トランプスポーツ連携機構
一般社団法人大学スポーツ協会

御中

スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課

スポーツ関係団体における受動喫煙防止対策に関するアンケート調査の結果について

今般、スポーツ関係団体を対象に本年9月に実施した受動喫煙防止対策に関するアンケート調査について、別添のとおり結果をとりまとめましたのでお知らせします。加盟団体に対し結果を周知するとともに、各スポーツ関係団体において、他のスポーツ関係団体の取組も参考に、行動規範やガイドラインなどの規程の整備、競技会場の禁煙化等をはじめとする受動喫煙防止対策をより一層進めていただきますようお願いいたします。

なお、令和2年4月に「健康増進法の一部を改正する法律」（平成30年法律第78号）が全面施行されることを踏まえ、令和2年3月頃を目途に今回と同様、競技大会開催時の受動喫煙防止対策の取組を中心にアンケート調査を行う予定です。加盟団体に対し併せてお知らせいたします。調査の際は改めてご協力いただきますようお願いいたします。

【本件連絡先】

スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課
電話：03-5253-4111（内線3494）
メール：oripara@mext.go.jp

1. アンケート調査の結果概要

調査期間：令和元年8月30日から9月27日まで

質問：

1. 現状に関する質問	
(1)-1	現在、貴組織において、受動喫煙防止対策に関するルール・規則・規程等を設けていますか。
(1)-2	（上記で「設けていない」と回答した場合）ルール等を設けるにあたって、障害・課題となつてはありますか。具体的にお願いします。
(2)	スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課が突出した事務連絡（平成31年4月25日付け「健康増進法の一部を改正する法律」の施行について（通知）を踏まえた対応について（依頼））を踏まえ何か対応されたことがありますか。具体的にお願いします。
2. 今後に関する質問	
(1)-1	今後、貴組織において、前出の事務連絡を踏まえ、受動喫煙防止対策に関するルール・規則・規程などを設ける予定がありますか。
(1)-2	（上記で「設ける予定がない」と回答した場合）ルール等を設けるにあたって、障害・課題となりうるものはありますか。具体的にお願いします。
(2)	前出の事務連絡を踏まえ、ルール等以外で何らかの予定している取組がある場合は具体的にお願いします。
3. その他	
(1)	その他お気付きの点がある場合はお願いします。

回答数：118団体から回答あり。このうち、

- 1.(1)-1 については、33団体が既にルール等を「設けている」と回答。
- 1.(2)については、20団体が何らかの対応を行ったと回答。
- 2.(1)-1 については、25団体が今後ルールを「設ける予定がある」と回答。
- 2.(2)については、19団体が予定している取組があると回答。

※実際の回答例については別紙添添参照

2. 今後の対応

次回、令和2年4月に「健康増進法の一部を改正する法律」（平成30年法律第78号）が全面施行されることを踏まえ、令和2年3月頃を目途にアンケート調査を実施予定。

実際の回答例

※団体や競技が特定できないよう、表現を変えているところがある。

1.(1)-1：現在のルール等の設定例

- ・ 役員行動規範に「受動喫煙防止等を含む環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない」と定めている。また、日本代表行動規範においても「受動喫煙の防止等、環境問題に配慮して行動する」と記し、受動喫煙防止に配慮して行動することを定めている。
- ・ 代表チーム（強化指定選手・育成選手及びスタッフ）においては、「行動規範に関する規程」に活動期間中は禁煙とすることを明記しており、毎年度開催している研究会で徹底を図っている。
- ・ 就業規則に所定の場所（屋外に設置している喫煙場所）以外での喫煙をしないよう記載している。
- ・ 大会会場、会議室、事務室等、すべて運用上のルールとして禁煙としている。
- ・ 開催会場の喫煙場所のルールに合わせ、大会プログラム等に記載し、参加者へ配布して周知徹底を行っている。
- ・ これまで公営の体育館で各種大会及び合宿を実施しており、公営体育館の喫煙規制の範囲で喫煙を認めなかった経緯がある。しかし、今年開催した国際大会では、館内はもちろん、敷地内での喫煙は全面禁止にして実施した。
- ・ 大会開催の際、喫煙所を明記するなど「禁煙者」、「喫煙者」の分離ができるようにしている（大会開催時には大会要項や出場選手への通知に記載して周知している）。
- ・ 諸行事の際に会場の決められた場所に喫煙所を設置し、喫煙所以外の場所での喫煙を禁じる旨をアナウンスしている。本連盟内の競技スペースは、競技に支障を来さぬよう全館終日禁煙としている。
- ・ 競技大会時、競技エリア内の禁煙措置。競技エリア外に喫煙所設置。

1.(2)：事務連絡を踏まえた対応例

- ・ 加盟団体（都道府県協会、全国連盟等）へ、法律の趣旨を含め周知を行った。
- ・ 本通知を踏まえて、より一層競技会場責任者と緊密に受動喫煙防止のための対策・協議を行っている。
- ・ 当協会加盟団体及び関係団体への呼びかけを、メールと会合（部会）等で説明してきた。
- ・ 強化合宿の実施に先立ち、参加する選手やスタッフに事業実施中の禁煙遵守を喚起している。
- ・ 選手・スタッフについては、規程の整備、研修の実施で啓発に努めている。また、連盟が主催する大会においては、開催施設の喫煙ルールに従い、指定された喫煙所以外で喫煙することのないよう参加チームに徹底を図っている。
- ・ 強化指定選手やスタッフについて、集合する機会にたばこの害についての講習を実施するように強化担当委員長より現場担当者に指示をしている。チーム毎に年一回「禁煙を促す取り組み」を実施し、受動喫煙に関する指導を行っている。
- ・ 普及指導員講習会などにおいて、本会スポーツドクターから受動喫煙と健康問題について指導する機会を設けた。
- ・ 本年4月に当連盟の主たる強化スタッフ等の研修会において、政府インターネットテレビのビデオ「たばこの煙の恐ろしさ 吸ってる人にも吸われないにも 知ってもらいたい」とを上映した。
- ・ アンチ・ドーピング講習会において、受動喫煙を含む禁煙についての教育を行っている。

- ・ 新たに管理する施設内での喫煙を禁止した。
- ・ 直近の国際大会において、受動喫煙が発生しないよう競技会場で配慮した。
- ・ 各会場において、主管団体及び開催地と協力し、喫煙場所を設置する場合は受動喫煙に配慮し設置をお願いしている。
- ・ 6月に日本国内で開催された国際大会において、大会会場内での喫煙を禁止とした。
- ・ 競技会場内は全面禁煙としている。
- ・ 特に未成年者の参加が多い大会の場合は、施設の規則で不十分な場合、また大会として特に必要と判断した場合は、喫煙場所について配慮している。

2.(2)：事務連絡を踏まえ、ルール等以外で予定している取組例

- ・ 選手や協会役員を対象とした受動喫煙防止対策に関する周知の徹底を、研修会や役員会などで行っているようにする。
- ・ 選手や指導者に対する教育・研修の際に受動喫煙防止に関する啓発も行いたい。
- ・ 通知文を連盟内で共有し、受動喫煙防止対策のための意見聴取を行う。
- ・ 今後、全国プロテック長会議や社員総会等の会議体、またクラブチームへの通知文により、受動喫煙防止に留意するよう注意喚起に努めていきたいと考えている。
- ・ 当連盟医学・安全委員会においては、稽古時・大会等における受動喫煙に係る当連盟委員の実態調査を行うとともに、その対策を精査する。
- ・ 当連盟の「強化指定選手等行動規範」により、現行では選手について「強化指定選手等としての活動期間中は、20歳以上であっても喫煙は禁止する」としているが、これを指導者にも拡大することを検討したい。
- ・ 当連盟が設けている「受動喫煙防止対策ガイドライン」の会員への周知徹底を指導者研修会・機関誌・ホームページ等を通じて更に強化して行う。特に研修会内においては、医師などを講師に招き、受動喫煙による健康被害についても研修内容に加えることを検討している。
- ・ 協会としての詳細なルール制定は未済であるものの、競技会場において、選手や指導者、選手の保護者や観客等に受動喫煙が発生しないよう競技大会の運営に細心の注意を払うことについては都度意見交換を行うようしたいと考えている。
- ・ 今後は、大会プログラムに受動喫煙防止に関するページを設け、運営者や参加者に対して意識の啓発を行う予定。

登録規程（2020年度版）

公益社団法人 日本ホッケー協会

＜登録の義務＞

1. 公益社団法人日本ホッケー協会(以下「JHA」という)に所属するチーム及び構成員(監督、コーチ、選手、その他役員)は、2.に規定する種別に登録しなければならない。

未登録のチーム及び構成員は、JHA主催の大会及びそれに準じる大会(国民体育大会ブロック大会等)に出場することはできない。

構成員(監督、コーチ、選手、その他役員)の登録は、「選手」もしくは「チームスタッフ」の2種類とし、そのどちらかまたは両方に登録することができる。

なお、チームの構成が通常活動するチームと編成が異なる可能性のある、国民体育大会(ブロック大会を含む)、中学11人制大会、ジャパンリーグにおいては、【別表(追加登録の具体例)】に従い登録を行う。平成29年度まで認めていた「一般男女」の登録者が、全日本マスターズ大会に参加する場合の登録免除は廃止し、必ず「マスターズ」種別にも登録すること。

また、「手当者」の兼務については、【別紙「監督・選手・コーチの兼務について(2018.7.7.通知)」】に則り行うこと。

＜登録の種別＞

2. 登録の種別は次のとおりとする。

(1) 一般男子	(7) 中学男子	(13) 国体(成年種別)
(2) 一般女子	(8) 中学女子	(14) 国体(少年種別)
(3) 大学男子	(9) スポ少男子	(15) 中学11人制
(4) 大学女子	(10) スポ少女子	(16) ジャパンリーグ
(5) 高校男子	(11) マスターズ男子	(17) マスターズ
(6) 高校女子	(12) マスターズ女子	

※(13)から(17)は個人登録用の種別

※(13)(14)の国体は、ブロック大会も該当する

※H J Lの大学チームに参加する社会人選手は、(16)ジャパンリーグで登録する

＜登録の手続＞

3. 本年度の登録（以下「年度登録」という）は新登録システムにより、5月20日までにJHAへの登録を完了しなければならない。年度登録は、別に定める電子登録と登録料の納入（コンビニ決済もしくはクレジットカード決済のいずれか）によって完了する。なお、前述2通りの方法による決済ができない場合には、事前にJHAに相談すること。

また、今年度より、年度当初のチーム登録は下記の通り1次・2次の2回の期日を設ける。

- ・1次締め切り・・・4月20日（月）
- ・2次締め切り・・・5月20日（水）

※1次締め切りは、5月末から行われる高校のインターハイ都道府県予選に「登録証」の発送を間に合わせるために設けている。

＜追加登録・登録変更＞

4. 追加登録・登録変更は次のとおりとする。

(1) 新しく結成されたチームは、都道府県協会がその事実を審査のうえ証明書を添えてJHAへ登録することができる。

(2) 登録構成員に追加あるいは変更のある場合は、前項3.〈登録の手順〉と同様の方法により、電子登録と登録料の納入（コンビニ決済もしくはクレジットカード決済のいずれか）によって遅延なくJHAに届け出ること。

「登録証」の発行は、1年を通じ毎月20日〆切、月末発送とする。

(3) 選手の移籍については、別に定めるところによる。

＜外国人選手＞

5. 外国人の取り扱いは次のとおりとする。

外国人選手（以下「外国人」という。）の登録手続は、次の通り行うものとする。

(1) 外国人とは、日本国の国籍を持たないものをいう。

ただし、日本の学校教育法に基づく中学校または高等学校を卒業した者を除く。

(2) 全日本選手権およびホッケージャパンリーグに出場する外国人選手は、次のいずれかの書類の写しを試合に出場する3日前までにJHAへ提出すること（電子メールで可）。

- ① 所属先の記された書類と就労ビザの写し
- ② 居住する市町村が発行する外国人登録の写し
- ③ 登録学校の在学証明書の写し

④ 留学ビザの写し

(3) 年度登録の外国人数は、無制限とする。

(4) 外国人の全国大会参加に係る大会実施要項の取扱い

外国人の大会参加については、次のとおり大会実施要項に明記する。

「大会エントリーの外国人数は無制限とし、スターティングリストは2名以内とする。」

(5) 全国高等学校選抜大会及び全国高等学校総合体育大会については、全国高等学校体育連盟の規定に基づく。

<その他、登録の留意事項>

6. その他、登録の留意事項

(1) 年度登録に関しては、人数および登録者居住地の制限はない。

(2) 選手は同一種別に属する複数のチームに登録することはできない。

(3) 国民体育大会(ブロック大会含む)・中学11人制大会について、いずれかの《登録の種別》に登録していれば参加可能である。ただし、「選手」登録していた者が「チームスタッフ(監督・コーチ・その他役員)」として出場する場合や、その逆に「チームスタッフ(監督・コーチ・その他役員)」として登録していた者が「選手」として出場する場合には、【別表(追加登録の具体例)】に従い《登録の種別》(13・14) 国体の部、(15) 中学11人制、(16) ジャパンリーグに登録しなければならない。

※ 全国スポーツ少年団大会、全日本中学生大会、インターハイ、高校選抜大会において、学校代表者(学校長等)については特例として各大会の実行委員会に申請することによりベンチ入りができる。その場合、実行委員会がADカードを発行する。

※ 全国スポーツ少年団大会、全日本中学生大会、インターハイ、高校選抜大会における「チームスタッフ」の制限については、所轄団体等との規程を踏まえて、実施要項もしくは大会レギュレーションで定める。

(4) H J Lの大学チームに参加する社会人選手のために、登録種別(16)「ジャパンリーグ」を設けている。

<年度登録料>

7. 年度登録料は、チーム登録料、役員・選手個人登録料からなる。

種 別	チーム登録料	役員・選手個人登録料(1人当たり)
一般男子・一般女子	45,000円	チームスタッフ1,400円 選手1,400円
大学男子・大学女子	35,000円	チームスタッフ1,400円 選手1,300円
高校男子・高校女子	30,000円	チームスタッフ1,400円 選手 200円
中学男子・中学女子	6,000円	チームスタッフ1,400円 選手なし
スポーツ少年団男子・スポーツ少年団女子	1,000円	チームスタッフ1,400円 選手なし
マスターズ男女	なし	チームスタッフ1,400円 選手1,400円
・国体(含:ブロック予選) ・中学11人制 ・ジャパンリーグ ・マスターズ	※左記大会における 個人登録用種別	チームスタッフ 3,000円 選手 3,000円(一般、大学、H J L、マスターズ) 1,000円(中学、高校)

<登録証の再発行>

8. 紛失等の理由による「登録証」の再発行手続きについては下記の通りとする。

- (1) 追加登録と同様の手順(当規程4、参照)により行う。
- (2) 「登録証」の再発行については、再発行手数料として下記の金額を徴収する。
 - ・高校生以下 500円(都道府県協会までの送料込み)
 - ・大学生以上(マスターズ含) 1,000円(都道府県協会までの送料込み)
- (3) 大会当日に「登録証」を持参していない(忘れた・紛失した)場合
 - ・大会実行委員会により、当該者の登録状況を確認した後に、当該大会のみ有効の「登録証明書」を大会TDが発行する。
 - ・この際、発行手数料として500円を徴収する。

<審 査>

9. 登録に関する審査はこの規程にもとづいて都道府県協会が行い、J H A の承認を得るものとする。

＜チーム移籍＞

10. チーム移籍は次のとおりとする。

(1) 一般種別（ホッケージャパンリーグ加盟チームを除く）の移籍について

年度内に選手が所属チームを変更する場合（移籍）は、新所属チームは旧所属チームの同意書を添付して、JHAに通知しなければならない。

※全国大会の予選会の大会参加申込書に記載されている選手は、その全国大会に別のチームで出場することはできない。

※全日本社会人選手権大会、全日本学生ホッケー選手権大会の大会参加申込書に記載されている選手は、同年度内に開催される全日本選手権大会に別のチームで出場はできない。

(2) ホッケージャパンリーグ加盟チーム間の選手移籍について

① ホッケージャパンリーグ加盟チームに一度でも選手登録された選手は、同一年度内は他のホッケージャパンリーグ加盟チームに移籍することはできない。

② ホッケージャパンリーグ加盟チームに選手登録された選手が、翌年度に別のホッケージャパンリーグ加盟チームに移籍する場合は、移籍前後の両チームの代表者と本人（未成年者の場合は保護者も含む）の三者による「同意書」をホッケージャパンリーグに提出し、ホッケージャパンリーグが認めた場合のみ移籍を認める。

③ ②において選手が移籍を希望するものの、移籍前のチームから「同意書」が得られなかった場合は、移籍前のチームを退部した日から1年を経れば「同意書」がなくても移籍後のチームに選手登録できる。

④ ②において、高校生および大学生が卒業に伴い翌年度の所属チームを変更する場合には適用しない。すなわち「同意書」がなくても所属チームを変更できる。

⑤ ホッケージャパンリーグ加盟チーム間の移籍に関する疑義が生じた場合は、ホッケージャパンリーグがJHAと協議のうえ決定する。

(3) その他

移籍に関する疑義については、JHAが決定する。

＜その他＞

11. この規程に定めのないものについては、その都度JHAが決定する。

＜付 則＞

12. この規程は、2020年4月1日より施行する。

都道府県ホッケー協会 殿
 日本社会人ホッケー連盟 殿
 日本学生ホッケー連盟 殿
 全国高等学校体育連盟ホッケー専門部 殿
 中学校部会 殿
 スポーツ少年団部会 殿
 ホッケー日本リーグ機構 殿
 公認競技役員 殿

公益社団法人日本ホッケー協会
 技術委員会委員長 真 喜代司

監督、選手、コーチ、手当者の兼任について（通知）

平素より多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。
 さて、同一チームにおける監督と選手、コーチと選手等の兼任とは別に、複数チームにおいてコーチや監督を兼任するケースについてのご質問を多くいただいております。特に、手当者の兼任扱いについては、考慮を必要とするチーム事情もあって伺っております。
 つきましては、兼任の可否を次の通りまとめとめて通知いたしますので、ご理解の上、本年度の大会参加時のエントリーにつきましまして、遺漏のないように手続させていただきますよう、貴管下所属チームへ周知よろしくお願いいたします。

記

- 1 選手、コーチ、監督の兼任の可否について
 - (1) 同一大会の場合は、複数のチームにわたる監督・コーチ・選手の兼任は認めない。ただし、自身の所属するチーム内で選手兼コーチ、選手兼監督の兼任は認める。その場合は、「選手」「チームスタッフ」の両方での登録が必要。（従前から変更なし）
 - (例1) 社会人大会で同じチームの監督兼選手として大会参加することは可能。
 - (例2) 社会人大会で、男子チームでは選手、女子チームのコーチという参加は認められない。同一大会で複数チームでの参加となるため認められない。（男子・女子の種別は異なるが同一大会とみなす）
 - (2) 別大会の場合は、兼任を認める。
 - (例3) インターハイで監督をし、インカレで監督をすることは認める。ただし、大学チーム、高校チームのそれぞれに「チームスタッフ」としての登録が必要。
 - (例4) インカレで監督をして、社会人大会で選手をすることは認める。ただし、大学チームで「チームスタッフ」として登録し、社会人チームで「選手」としての登録が必要。
 - (3) 全国大会の予選会もその同一大会とみなす。すなわち、社会人大会のブロック大会で男子チームの選手で大会参加登録した人は、たとえブロック予選会で敗退したとしても、女子を含む他の社会人大会（本大会含む）に参加するチームの監督、コーチ、選手として登録することはできない。
 - (例5) 社会人大会関東ブロック予選会の男子チームの選手で大会参加登録された人が近畿ブロック予選会の女子チームのコーチとして大会参加登録することは認められない。

- 2 手当者の兼任の可否について
 手当者は、同一大会内であっても制限なく兼務を認める。ただし、選手として登録をしている者が、他のチームで手当者に従事する場合は、別途チームスタッフ登録を完了しておくこと。同チームであればチームスタッフ登録の必要はない。また、手当者は成人でなければならぬ。なお、同一種別の別のチームに同時に登録することも可能であるが、当該チーム同士が対戦する場合は、どちらか一方のチームでしかスターティングリストにエントリーできない。
 (例6) インカレに男子チームの「手当者」として参加登録し、同時に参加している別のチーム（男女関係なく）の「手当者」として参加することができる。
 (例7) インカレに男子チームの「監督」として参加登録し、同時に参加している別のチーム（男女関係なく）の「手当者」として参加することができる。

3 国体出場にかかる制限

- 全ての役職において、同一都道府県での出場しか許されない。すなわち、「手当者」を含め全ての役職において、同一都道府県以外での兼務はできない。
- 監督・コーチ・選手では、種別をまたいで兼務は認められない。ただし、「手当者」についてのみ、同一都道府県内であれば兼務を認める。
 (例8) A県少年男子チームの「監督」はA県少年女子チームの「手当者」として参加できる。

4 その他

- 「チームスタッフ」の制限について、全国スポーツ大会・全日本中学選手権・中学11人制大会およびインターハイについては、実施要項もしくは大会レギュレーションで定める。
- この規程は、ブロック予選会も同様の扱いとする。

以上

※ このことについて何かありましたら、下記まで問い合わせください
 公益社団法人 日本ホッケー協会 技術委員会 競技部長 平尾 豊
 TEL 090-7372-0054 Eメール a64_hirao@yahoo.co.jp

Tokyo2020 Updates

February 8, 2019

大井ホッケー競技場 全体図



大井ホッケー競技場建設状況

Construction start: December 2017



大井ホッケー競技場建設状況

Construction start: December 2017



大井ホッケー競技場建設状況



Construction start: December 2017



5

大井ホッケー競技場建設状況



Construction finish: July 2019



Time lapse; <https://www.youtube.com/watch?v=3tHxTojAfgs>

6

大井ホッケー競技場



Construction finish: July 2019



7

大井ホッケー競技場大会時イメージ



Image (Games time)



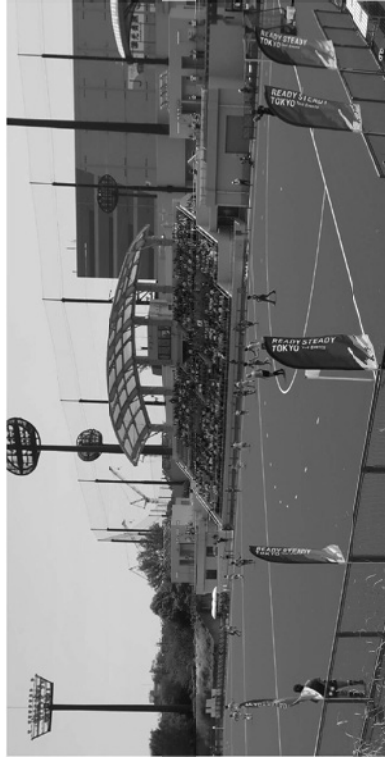
2,600 seats: permanent use
10,000 seats: Games time

8

南ピッチ(sub pitch)



Construction finish: July 2019



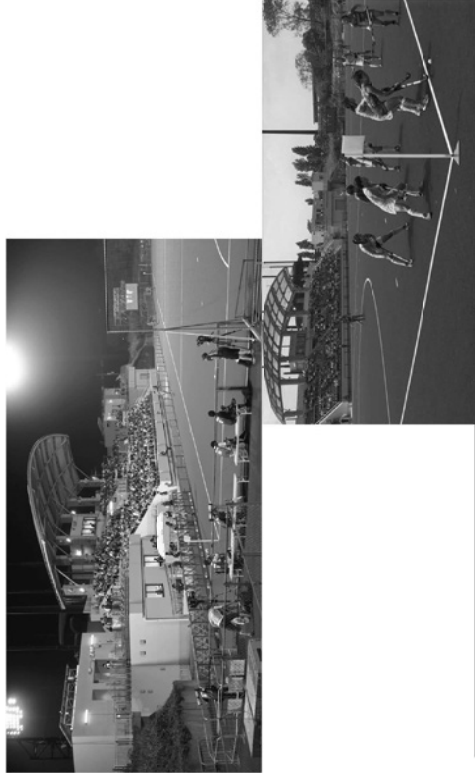
500 seats: permanent use
5,000 seats: Games time

9

南ピッチ(sub pitch)



Construction finish: July 2019



10

テストイベント



Event Overview

Event name : Ready Steady Tokyo -Hockey

Dates : Sat. 17 AUG to 21 AUG

※ 19 AUG (Rest day)

※ 15 and 16 AUG (Official training days)

Venue : Oi Hockey Stadium (North pitch and South pitch)

Participating teams:

(Men) India, New Zealand, Malaysia and Japan

(Women) Australia, India, China and Japan

テストイベント



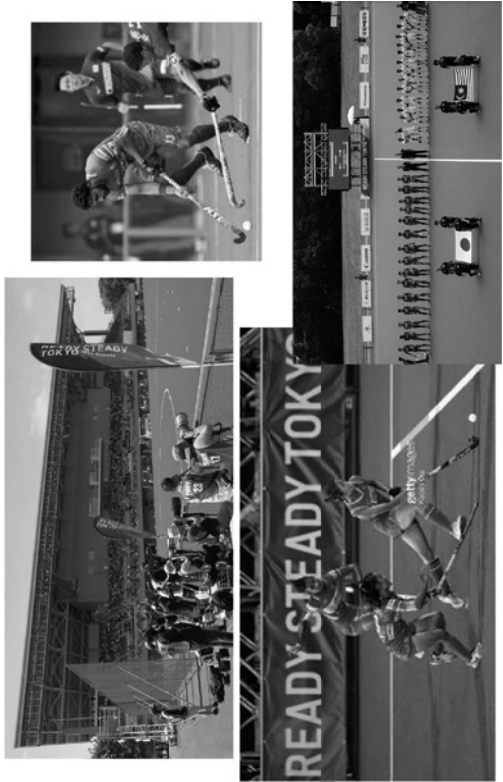
Venue opening ceremony

17 August 2019



<https://www.youtube.com/watch?v=xHx4uQNYJk>

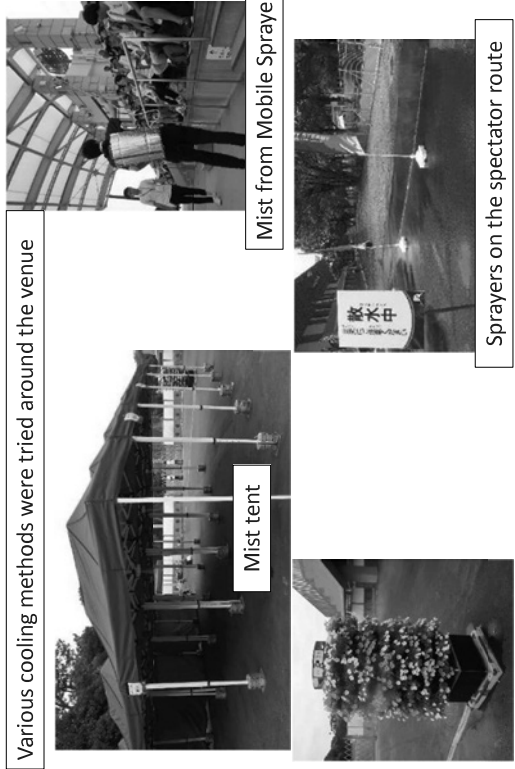
テストイベント



暑さ対策



Various cooling methods were tried around the venue

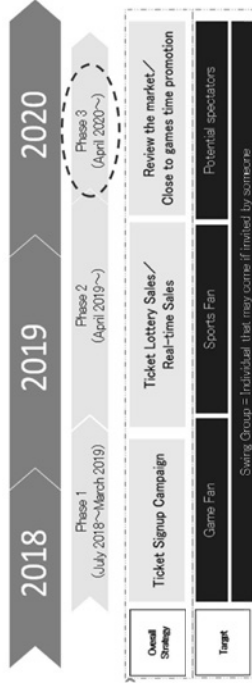


Mist tent

Mist from Mobile Sprayers

Sprayers on the spectator route

チケット販売



- ✓ 2nd ticketing lottery for Japanese residents only. (18 Dec 2019)
- ✓ Anybody can NOT resell tickets to the others (a new Law just recently established in Japan)
- ✓ At this stage, please note that only residents of Japan are eligible to purchase tickets from the Tokyo 2020 Official Ticket Website. Overseas residents are kindly requested to purchase tickets from their country's designated Authorised Ticket Resellers (ATR).

選手村



Olympic Village

対戦カード発表

Date: Tuesday 17 December
 Event location: Tokyo2020 office press conference room
 Participants:

- Tayyab Ikram, FIH Executive Board Member, IOC Olympic Solidarity Commission Member
- Koji Murofushi, Tokyo 2020 Sports Director
- Seren Tanaka, Japan Men's Hockey National Team Player
- Shihori Oikawa, Japan Women's Hockey National Team Player

This is the first set of Tokyo 2020 fixtures to be announced.



<https://www.youtube.com/watch?v=vAQNHoR4mMI>
 (7m15s -)



対戦カード発表

HOCKEY SCHEDULE

MEN

WOMEN

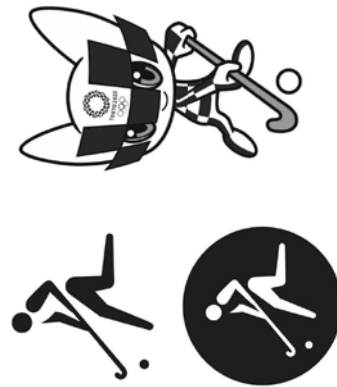
FIH



ピクトグラム

Pictogram

(30sec) <https://www.youtube.com/watch?v=B7YMcX-ttA>



Thank you



We are HOCKEY FAMILY!

インドアホッケーフェスティバル2020 ～日本での幕開けイベント～

2020年3月20日@アリーナ立川立飛・ドーム立川立飛



公益社団法人日本ホッケー協会



イベント概要



【イベント名称】
インドア・ホッケーフェスティバル2020 ～日本での幕開けイベント～

【主催】
公益社団法人日本ホッケー協会

【後援】(仮)
立川市、株式会社立飛ホールディングス、一般社団法人多摩スゴーツクラブ

【運営主管】
JHAインドア特別委員会

【日時】
2020年3月20日(金・祝) 11時から16時

【場所】
アリーナ立川立飛/ドーム立川立飛(東京都立川市泉町)



イベント概要



【目的】

インドアホッケーの確立、普及を図り、東京2020オリンピックの機運醸成とホッケー競技の認知向上に貢献する

【イベントの位置づけ】

- ①日本でのインドアホッケーの幕開けイベント
- ②立川エリアをインドアホッケーの聖地に位置づけ
- ③ホッケーファミリーの拡大

【イベントコンセプト】

次世代を担う若年層をターゲットとし、ホッケーの認知→体験→興味→競技開始のプロセスのうち、体験までを気軽に楽しみながら参加できるイベント

【目標来場者数】

のべ2,000人

【主要プログラム】

- ①日本インドアホッケー幕開けセレモニー
- ②アクティビティ(キッズ向け中心)
- ③日本代表クラスによるエキシビジョンマッチ

【入場料】

無料

インドアホッケーとは



- 1チーム6名の選手がスティックを巧みに扱い、相手ゴールにホールを入れよう競技



イベント会場

アリーナ立川立飛



イベントスケジュール

アリーナ

ドーム

時間	項目	時間	項目
11:00	開場	9:00	開場
12:00-12:20	開幕式 （オープニングセレモニー）	9:30	予選リーグ試合開始
12:20-12:50	エキシビジョンマッチ（さくらvsさくら）	9:30-15:30	予選リーグ 決勝トーナメント
13:00-13:30	足が速くなるダンス（SOMPO）	16:00	閉場
13:30-13:40	抽選会		
13:40-14:40	アクティビティ インドアホッケー決勝戦		
14:40-15:10	表彰式		
15:10-15:15	さくらジャパン選手会		
15:30-16:00	閉場		

アクティビティ概要



アクティビティ概要

✓ ホッケー日本代表さくらジャパンも参戦！



✓ 応援メッセージ

ホッケー日本代表チームへの応援メッセージカード記入

✓ さくらジャパン選手との触れ合い

ホッケー教室、サイン会、写真撮影など

✓ 代表選手トークイベント



パナー設置

アクティビティ概要

- ✓ スタンプラリー
アクティビティへの参加、試合観戦、キッチンカーや飲食購入、グッズ購入などでスタンプを押印
スタンプを集めてプレゼントを貰おう
- ✓ インスタグラム、Twitter
SNS投稿用ブースを設置。日本代表選手等身大ポスター等
- ✓ 飲食、グッズ購入
飲食コーナーやキッチンカーを設置
- ✓ 緣日コーナー
ヨーヨーすくい、輪投げなどの緣日コーナーを設置

将来構想 ～立川を日本のインドアホッケーの聖地に！

- ・ 世界のインドアホッケー
FIH (国際ホッケー連盟：総括団体) 準正団数 (70か国)
うち、インドア登録数 男子44か国 女子40か国
- ・ 主要国際大会
ワールドカップ (4年毎に開催。前回は2018年 トイフ)
アジアカップ (毎年開催。前回は2019年 タイ)



2018年2月にトイフ・ベルリンで行われた第6回インドアホッケーワールドカップ決勝戦の様子。5,000人の観客が熱い声援を送った

- ・ **国際大会の招致**
アジアカップ、ワールドカップ
- ・ **ユニバーサルスポーツ概念の確立と選**
パラホッケー、ビーチホッケー、フロアホッケーとの
ジョイントイベント、協力体制の確立、

(チーム宛)イベント参加のお願い

- ✓ イベント運営参画
アクティビティ運営
受付、インストラクターなど常時名程度
アクティビティブースの企業デコレーションはお任せします
※アクティビティブース設置、撤収、用具の準備は会場担当がおこないます
- ✓ 協賛品の提供
- ✓ 協賛 (ゴールド、シルバー、ブロンズ)

ご協賛のお願い

- ・ 第二回インドア・ホッケーフェスティバル (仮称) 開催の趣旨にご賛同の上、ご協賛いただける企業様を募集
しています。

ご協賛メニュー

- ・ **社名・ロゴの掲載**
イベント告知WEBページやチラシ、Tシャツなどへの社名・ロゴ掲載
- ・ **広覧物の設置や配布**
会場でのポスターやチラシ、リーフレットなどの広覧物の設置や、会場での配布
会場でのカンパブリング
- ・ **その他**
会場でのブース出展
スポンサーでのPRタイム、また、各種メール文面でのPRなど
アクティビティの企画・参加もご依頼可能

※登録メニューについてはカスタマイズやオプションプランも検討可能です。

例：エキシビションマッチ手協賛、決勝戦協賛、ことも向けコンテナーへの協賛など

※アリーナサイドでのスポンサー出展(PPエントランス、タリヤ、エントランス、ホール)との協賛機会なども選定ご相談させていただきます

Indoor Hockey Beginning Festival

「インドアホッケー幕開けフェスティバル」



インドアホッケー 日本初上陸!

日時：2020年3月20日（金・祝）
10時30分～16時

会場：アリーナ立川立飛・ドーム立川立飛

立飛グループイメージキャラクター

入場無料



「たっぴくん」「たっぴちゃん」

屋内で開催される新しいスポーツ「インドアホッケー」の記念すべき日本最初の公式戦が立川で開催されます。同時にご家族みんなで、ホッケーをはじめスポーツの楽しさを体験できる、様々なアクティビティをご用意しています。是非お気軽にご来場ください!!



ホッケー女子日本代表「さくらジャパン」来場決定!

「インドアホッケー幕開けフェスティバル」

主催：公益社団法人 日本ホッケー協会 後援：株式会社立飛ホールディングス / 一般社団法人多摩スポーツクラブ

問合せ先：インドアホッケー幕開けフェスティバル実行委員会 Tel 03 (6812) 9200

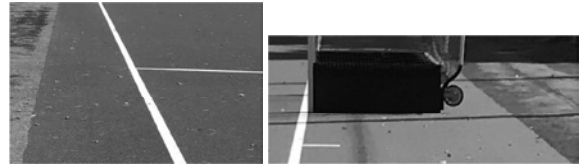
We are HOCKEY FAMILY!

JAPAN
HOCKEY

全国ルール統一研修会

期日：2019年2月11～12日
 会場：パナソニックリゾート大阪
 技術委員会競技部施設用具

(1) ランオフエリア



サイドライン側 1m

バックライン側 2m

- 1) FIHフィールドテスト
- 2) JHA公認フィールド
- 3) FIH公認ボール
- 4) その他

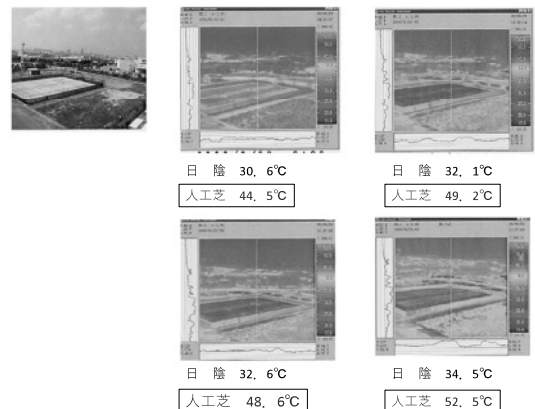
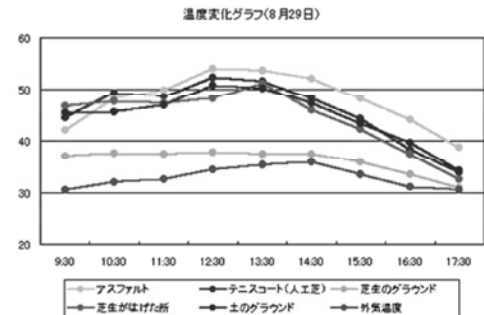
安全面を配慮

ランオフエリア		現行規程	改定
サイドライン側	内側(人工芝)	1m \leq	2m \leq
	外側(他材質可)	1m \leq	1m \leq
	計	2m \leq	3m \leq
推奨		3m \leq	4m \leq
バックライン側	内側(人工芝)	2m \leq	3m \leq
	外側(他材質可)	1m \leq	1m \leq
	計	3m \leq	4m \leq
推奨		4m \leq	5m \leq

(1) 2019年公認フィールド

No.	検査機関	施設名	規格
1	FIH	広島広域公園第二球技場	グローバル
2	FIH	大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場 サブピッチ	グローバル
3	FIH	大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場 メインピッチ	グローバル
4	JHA	山梨学院ホッケースタジアム	グローバル
5	JHA	藤前町人工芝ホッケー場 B	グローバル
6	JHA	名張市民ホッケー場	ナショナル I
7	JHA	滋賀県立伊吹運動場	グローバル
8	JHA	三沢高校ホッケー場	ナショナル I
9	JHA	川崎重工ホッケースタジアム A	グローバル
10	JHA	川崎重工ホッケースタジアム B	グローバル

(2) 人工芝ピッチの散水について



猛暑日における安全面の配慮が必要

<人工芝表面温度の上昇>

* 熱中症

* 足底部の低温やけど

散水を必要としないホッケー・ターフ・フィールドにおいては、熱中症や足底部の低温やけど対策として人工芝表面温度を下げるために散水施設の設置を強く推奨する。

3) ボール製造工程

INTRODUCING THE OFFICIAL GC2018 HOCKEY BALL

(3) アスファルト舗装について



人工芝フィールドでは、アスファルト舗装の勾配や平坦性の影響を受けやすい

人工芝敷設前に、アスファルト舗装の勾配と平坦性の検査あるいは人工芝敷設業者による点検を強く推奨する。

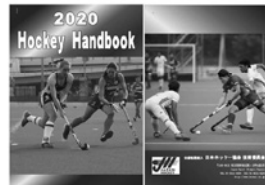
(4) 材料特定検査について

人工芝システム材料特定検査は、現場サンプルであることが証明できる写真（施工現場）を添付送付すれば、フィールドテスト前に実施できる。

4) その他

4月上旬発刊！

JHA HP にアップ！



(1) ホッケーボールの変遷



レザーボール



コルクボール



コンポジションボール



シームレスレザーボール



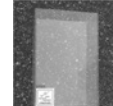
コンポジションディンプルボール

競技役員等用品の申込み

各自申込



エンブレム



1回目
切 7月10日
納品 9月末

2回目
切 10月10日
納品 1月末

JHA> 競技役員> 競技役員用品

(2) FIH公認ボール

カテゴリー	グローバル	ナショナルエリート	
商品			
商品名	Kookaburra Dimple Elite	Chingford Gold	Kookaburra Dimple Standard
製造会社	Kookaburra Sport Pty Ltd.	Anwar Khawaja Composites	Kookaburra Sport Pty Ltd.
FIH	トップレベル競技会	上記以外の競技会	

ルール研修会 質問・要望 (2019年度)

2020. 2. 8～9

質問

質問1【運営規程について(手当者)】

「競技運営規程9.8」の内容について、確認させていただきたく思います。

9.8 チームベンチから誰か(ストレッチャーを含む)がプレイヤーの手当のためにフィールド内に入場した場合には、

a そのプレイヤーがフィールドプレイヤーである場合は、そのプレイヤーはフィールドを出てチームベンチに試合時間で2分以上留まらなくてはならない。

・・・とあるが、プレイヤーの手当のために誰かがフィールドに入場したものの、手当を必要としなかった場合(プレー続行可能であった場合)は、aに記された様に退場することなく出場を続けてよいのか? 文脈からはそう捉えることもできるが。

A aにあるとおり、手当の有無に関わらず、チームベンチから誰か出た時点で、当該プレイヤーはベンチに戻って2分間留まらなければなりません。

この規則は、試合の流れを止めたり変えたりする目的で、たいした怪我でもないのに倒れこんで時間を停止させる行為を禁止するために設けられたものです。

質問2:【ルールについて(タックル)】

シェーピングタックルでボールを奪ったら反則を取られました。反則の基準を教えてください。

A シェーピングタックル自体を禁止する規則はありません。

規則9.13にある、「プレイヤーは、ボールを持っている相手プレイヤーに対して、身体接触をしないでボールがプレイできる位置でなければ、タックルをしてはならない。」とあります。それに対して、近年の規則適用について、「たとえ身体接触があったとしても、そのプレイが遮られることなく継続しているならば、プレイを続行させる」ようにしています。その、反則を取られたという状況が、どのようなものであったかわかりませんが、基準は、

1 身体接触の有無、2 プレイの妨害の有無、3 プレイへの影響の有無、を総合して手判断することになります。

質問3【ストッキングについて】

最近、ストッキングは同じものを着用していますが、選手によってはひざ下から足首まで部分のストッキング(足首からつま先を切り離している)を着用している選手もいます。足首部分からスネ当てが出ている選手もいたので、ストッキングで覆うように促したのですが ユニフォームで切り離れたストッキングの着用は可能でしょうか。

※ストッキングを切っている選手はストッキングの下に靴下をはいています。

A 最近このような傾向が多いことは承知していますし、同様の質問が競技役員から大会期間中に多く挙げられています。

規則では、靴下様であるか足首から切り離れたものであるか等の規程は一切ありません。しかし、「防具は、膝当てを除いて、すべて衣服で覆われていなければならない。」と定められています。足首からすね当てが出て、競技役員が危険と判断したら、すべての防具を覆うように指導してください。ただし、あまりにナーバスになりすぎる必要はないと思います。

質問4【着用ユニフォームの決定について】

試合で着用するユニフォームの色について、1st/2nd着用の判断手順の明確化と、最終判断はTDでよろしいでしょうか。

A チームの希望が1stユニフォーム着用であることは十分承知していますが、最終のTD判断の基準となるのは、1 判定の妨げとなる可能性がある紛らわしい色、2 観客の観戦(テレビ中継を含む)への影響です。手順は、TDが試合前に両チームの合意が得られるように変更を依頼する。その場合、トスにより決定する場合もある。

日本リーグや全日本選手権、場合によってはそれ以外の大会でも事前に競技役員側が色を指定してチームに伝える場合もあります。

質問5【広告について】

ユニフォームにおける広告・メーカー名宣伝等の是非

- A 是非でいえば「是」です。ただし、広告の大きさを含めて基準に合致していることが前提です。各チームが申請をして、写真等で確認したのちに技術委員会で許可をしています。

質問6【退場者について】

競技運営規程9. 6で、監督がT0から警告…の行為した人物に対する具体的なことの確認

カードは黄色いじょうか、ベンチから退場させた当該者のいる場所は

- A 質問意図が明確ではありませんが、「具体的なこと」とは、具体的行為の内容に関するご質問と判断して回答いたします。椅子や道具類等を蹴ったとか、暴言を吐いたとか、その行為が何回あったとかという行為をすべて具体的には示すことは困難です。

行動規範に示したこと、ホッケー競技やチームや協議委役員を著しく侮辱するようなこと、そして、それらは回数が何回目ということはありません。T0としての確に判断する能力を高めてください。

また、場所はそれぞれ一律には規定できませんが、試合に影響しない場所で、テクニカルテーブルの後方や更衣室等が考えられます。

質問7【インドアについて】

日本におけるインドアホッケーの今後の普及計画、強化計画、競技役員育成計画、国際大会への参加計画等を可能な範囲で教えてください。

- A ご承知のとおり、強化や競技役員育成はもとより国際大会への参加以前に、普及が第一と考えています。その普及計画として、本年度末に東京でインドア大会を開催する計画です。あらゆる機会を通じてその大会開催案内をいたしますので、ご来場ください。また、その大会開催を契機に課題や成果を検証して次の普及計画につなげていきたいと考えています。

要望1【D級審判員について】

D級公認審判員の年度登録料にあつては、2019年度からの更新システムによる更新手続きに移行したことにより、一旦、日本ホッケー協会に納付することとなっておりますが、年度末にブロックに送金されることでしたが、ブロックにとって大切な運営資金であり円滑な運営ができませんので、年度当初の登録手続きが完了次第、ブロックに送金いただけないでしょうか。

- A 年度初めの登録者分はできるだけ年度当初の登録完了次第送金するようにいたします。しかし、年度中に新規登録する者の登録料は、年度末一括とさせていただきます。

要望2【B級講習会講師謝金について】

ブロックにおいて、B級昇格講習会を年2回程度開催していますが、要項により受講料一人5000円、講師謝金1日につき5000円と定められていますが、講師交通費等を含めると収支が合わないのが実態です。(例：受講者3名＝15000円の収入、講師謝金交通費含め35000円の支出)

また、B級公認審判員は、全国大会を担当することができる資格であり、大学を卒業し地域に帰り審判員として活躍しています。B級の育成をブロックだけの財源で行うにはかなり負担が発生しています。ついては、ブロックで開催するB級昇格講習会にあつては、経費を補助する制度を構築していただけないでしょうか。

- A ご指摘のような事案をできるだけ避けるようにするために、各ブロックで講師が確保できるように、全国全ブロックに講師を置くようにしています。できるだけ交通費負担の少ない講師を選定する等の配慮をお願いしたいと思えます。しかし、仕事の関係等で、思うように講師確保ができない場合もあると思えます。予算に関わることでありますので、この場で約束はできかねますがその場合は、技術委員会で不足分負担ができるように検討いたします。

要望3【海外講師招聘について】

12月の全日本選手権の大会の際に、FIHでご活躍された方を講師として招聘されUM等テクニカル研修が開催されましたが、とても有意義な研修でした。人材の育成において持っても良い指針を示していただきました。このような研修を引き続き計画していただけると幸いですし、広く、情報発信をしていただきたいと思います。

A 昨年12月の海外講師による研修は大変好評であったと認識しています。

予算の関係もあるので確約できませんが、継続したいと思います。情報発信とは、受講希望についてのことと思いますが、予算上広く希望を受けることは現状では困難です。今後、同様の研修を開催する場合も、受講者を制限させていただくことになる可能性が高いです。今回受講された方々は、研修内容を広くブロックや全国に発信して情報共有を図ってください。

要望4【上げられたボールに対する危険度の解釈について】

ボールは膝より下ならば上げて構わないと思われている方がいるが、これが適用されるのは、PCの際、最初にシュートされたボールが5m以内にいる守備側プレイヤーの足に当たった場合に適用される。「競技規則P51、13.3 m。」

近年、試合のライブ配信等で解説も行われるようになり、「ボールは膝より下ならば上げて構わない。」と解説されているのを何度か聞きました。あくまでも自己啓発だとは思いますが、進展を期待したいと思います。

まずは、審判資格を取得されてみてはいかがでしょうか。

A 解説者の方に限らず、競技役員であっても解釈の相違があるのは事実ですが、大切なことは、選手も競技役員も観客も、観て楽しい、興奮する試合になることが、ホッケーの発展につながることを理解して、力を尽くしていきたいと考えます。一つ一つの判定や基準を議論するのも時には重要ですが、昨年のラグビーワールドカップもすべての観客が、規則を十分理解して観戦していたわけではないです。盛り上がる試合、みんなで盛り上げる応援をすることが、今年のオリンピックでホッケーを「観て楽しいスポーツ」にしていくチャンスです。みんなの力で、盛り上げる努力をしていきましょう。

要望5【サジェスチョンアンパイアについて】

現在、いろんな大会でサジェスチョンアンパイアを配置されて試合を行っていますが、選手（DF、GK）からサジェスチョンアンパイアが動かれると相手の選手と間違えることがあるので、ゴール付近は動かないでほしい。

A サジェスチョンアンパイアの位置からよく見えない場合は、動いてより事象がより見やすい位置に移動しなければなりませんので、一か所にとどまり動かないで正確な判断を行うことは難しいです。審判員も同様に動きますので、なるべく選手のユニフォームを色彩が重複しない色を着用するようにしています。

要望6【S0時における役員の役割分担について】

当該の2人目のアンパイアは、判定の補助をして、リザーブアンパイアはゴールラインを見る形にしてはどうか？

A 最近の国際試合でも、多くの場合ご要望にあるような形式を取るケースが見受けられます。一方で、8秒の計測も重要な要素ですので、日本のジャッジの技量等も確認しながら、技術委員会で検討いたします。

要望7【6人制における時間管理について】

6人制の各種大会においても、ハーフタイムをきっちり計測し、後半開始はオンタイムで始めることにすればどうか？
(大会運営上、公平性の観点から)

A 要望6同様、技術委員会で検討し、実施するようであれば次年度までに通達させていただきます。

要望8【怪我の対応について】

怪我があった場合、アンパイアがドクター等と呼ぶジェスチャーをしてもベンチから誰も出てこない場合があるので、周知徹底をしてほしい。関連して、怪我があったら、ボールを外に出してプレイを切ることを、小学生の段階から指導するようにしてほしい。

A 本研修会で周知徹底できるようにいたします。チームでは、必ず手当者を登録していますが、本来の目的と異なる手当者の登録も見受けられますので、そのことも併せて確認いたします。また、ボールを外に出すことも、広く行われると良いと考えますので、研修会で確認いたします。

要望9【審判員のシャツについて】

アンパイアシャツのレインボーはかなり浸透してきているので、アンパイアシャツはレインボー1色のみにはどうか？（新たに始めるアンパイアの負担軽減になると思われる。）

- A 原則、レインボーシャツを審判員シャツとして使用するように推奨していく考えです。しかし、業者の在庫や既に他の色を持っている審判員もいること等からすぐに完全実施はできかねると判断しています。今後検討してまいります。

要望10【全国スポーツ少年団ホッケー交流大会開催時期について】

全国スポ少は、真夏の暑い時期を避けて開催したほうがいいのではないか？（子供の安全を最優先すべき）

- A 次年度は、オリンピックの関係で開催時期が例年とは異なるように計画しています。夏休みや休日の活用もありますので、総合的に判断していきたいと思えます。

要望11【ウォーミングアップ場確保について】

試合会場でのウォーミングアップ場を確保して頂きたい。

- A 当然のご要望だと判断しています。施設の状況にもより、十分な場所の確保には会場により差異が生じますが、アップ場の確保は、開催地にも技術委員会として必置事項としてすでに要求しているところです。

要望12【大会・試合前後のイベントについて】

キッズエスコートは来場者も増え盛り上がるので、日本リーグ、各大会準決勝、決勝と行ってはいかがでしょうか？

- A できるだけ要望していきたいと思えますが、特に国体や社会人大会などは、開催地のホッケーの普及という観点で大切なことだと思います。ホッケーを知らない子どもたちへの関心を高めることにもつながります。できる限り開催地への要望として技術委員会からもお願いするようにいたします。

要望13【Briefingのあり方】

ルールや具体的なシチュエーションに関する検討を含めた会議(Briefing)がより活発に設けられてもよいのではと思えました。

日本では今般のような統一研修会と各ブロックの伝達会+αに留まり、年に1、2回しかありません。

アンパイアのレベルを問わず、(たとえば)各ブロックに、アンパイアリングやルールの適応に関して、講師を中心にざっくばらんに討論やレクチャーができる機会が他国にはもっとあるように思いますし、そうした機会の存在が、相互学習とチーム関係者、プレイヤー、アンパイア等の試合を構成する各ステークホルダーのコミュニケーションの向上に繋がるとも推察されます。そのような機会の設定が、もう少し日本で検討されてもよいのではと感じております。

- A 以前から同様のご意見をいただいております。以前は、各大会前にそのような場を設定したこともありますが、大会直前は試合に集中したい等のご要望から、中止した経緯もあります。技術委員会でもそのようにしたいところですので、場の設定や回数等を含めて開催を検討いたします。

2020年度 国内競技会 主催・共催計画

2019年11月26日

大会名	大会回数	期 間	主管協会・連盟	会 場	主催・共催
高円宮杯2020男子日本リーグ	第19回	未定	ホッケー ジャパンリーグ	山梨学院ホッケースタジアム 駿河台大学ホッケー場 川崎重工ホッケースタジアム 三成公園ホッケー場 日光市ホッケー場 小矢部ホッケー場 立命館OICフィールド 駒沢オリンピック公園総合運動場 越前町宮朝日総合運動場	共催
高円宮杯2020女子日本リーグ	第24回	未定	ホッケー ジャパンリーグ	川崎重工ホッケースタジアム 山梨学院ホッケースタジアム 日光市ホッケー場 駿河台大学ホッケー場 広島広域公園第二球技場 立命館OICフィールド	共催
Women's Junior World Cup Qualifier and Junior Asia Cup 2020		4月6日(月)～4月12日(日)	実行委員会 岐阜県協会 各務原市協会	川崎重工ホッケースタジアム	主催：AHF 共催：JHA
全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦	第39回	7月2日(木)～7月5日(日)	関西学連	立命館OICフィールドグリーンランド みずほホッケー場	主催
東京オリンピックホッケー競技	第32回	7月25日(土)～8月7日(金)	IOC 2020組織委員会	大井ホッケー競技場	
全国高等学校ホッケー選手権大会	男子第83回 女子第62回	8月18日(火)～8月22日(土)	栃 木	日光市ホッケー場 今市青少年スポーツセンターホッケー場 日光市丸山公園サッカー場	共催
全日本中学生ホッケー選手権大会	第50回	8月22日(土)～8月24日(月)	静 岡	清水町総合運動公園多目的スポーツ広場 長泉町竹原グラウンド	主催
全日本マスターズホッケー大会	第18回	9月5日(土)～9月6日(日)	北海道	野幌総合運動公園ホッケー場	主催
全日本社会人ホッケー選手権大会	男子第62回 女子第42回	9月19日(土)～9月23日(水)	三 重	名張市民ホッケー場 メイハンフィールド(名張市民陸上競技場)	主催
国民体育大会ホッケー競技	第75回	10月8日(木)～10月12日(月)	鹿児島	樋脇屋外人工芝ホッケー場 丸山自然公園ホッケー場	共催
全日本学生ホッケー選手権大会	第69回男子 第42回女子	10月30日(金)～11月3日(火)	関東学連	大井ホッケー競技場	主催
WMHマスターズ ホッケーワールドカップ		11月5日(木)～11月15日(日)	東 京	大井ホッケー競技場他	共催
全日本中学生都道府県対抗 11人制ホッケー選手権大会	第21回	11月7日(土)～11月8日(日)	福 井	福井県立ホッケー場 越前町宮朝日総合運動場	主催
全日本男子・女子ホッケー選手権大会	第94回 第81回	12月3日(木)～12月6日(日)	岡 山	赤磐市熊山運動公園多目的広場	主催
全国高等学校選抜ホッケー大会	第52回	12月23日(水)～12月27日(日)	岐阜高体連	川崎重工ホッケースタジアム	主催
全国スポーツ少年団ホッケー交流大会	第42回	12月26日(土)～12月28日(月)	広 島	広島広域公園第二球技場	主催

※期間は競技実施期間、網掛けは国内で行われる国際大会

2020年度 国民体育大会ブロック大会 一覧表

2019年12月9日

ブロック	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州
開催 都道府県	北海道	山形県	神奈川県	富山県	愛知県	滋賀県	鳥取県	香川県	沖縄県
開催場所	野幌総合運動公園 ホッケー場	川西町総合運動公園 ホッケー場 県立米沢商業高等学校 人工芝グラウンド	慶徳日吉 法政二高グラウンド	小矢部ホッケー場 小矢部市野外運動広場	庄内緑地公園	滋賀県立伊吹運動場 米原市伊吹第1号グラウンド	八頭高等学校 ホッケー場	三菱がし株式会社 香川事業所 人工芝グラウンド	今帰仁村運動公園 ホッケー場 北山高등학교
開催日	7月4日(土) 5日(日)	8月28日(金) 30日(日)	8月27日(木) 30日(日)	8月28日(金) 30日(日)	8月28日(金) 30日(日)	8月28日(金) 30日(日)	8月28日(金) 30日(日)	8月28日(金) 30日(日)	8月28日(金) 31日(月)



HOCKEY MEN'S SCHEDULE



SATURDAY 25 JULY

NORTH PITCH	
9:30	JAPAN vs AUSTRALIA
11:45	NETHERLANDS vs BELGIUM
18:30	GREAT BRITAIN vs SOUTH AFRICA

SOUTH PITCH	
10:00	NEW ZEALAND vs INDIA
12:15	ARGENTINA vs SPAIN
19:00	CANADA vs GERMANY

SUNDAY 26 JULY

NORTH PITCH	
18:30	INDIA vs AUSTRALIA
20:45	SPAIN vs NEW ZEALAND

SOUTH PITCH	
19:00	JAPAN vs ARGENTINA
21:15	SOUTH AFRICA vs NETHERLANDS

MONDAY 27 JULY

NORTH PITCH	
9:30	GERMANY vs BELGIUM
11:45	GREAT BRITAIN vs CANADA

TUESDAY 28 JULY

NORTH PITCH	
9:30	ARGENTINA vs AUSTRALIA
11:45	JAPAN vs NEW ZEALAND
18:30	BELGIUM vs SOUTH AFRICA
20:45	NETHERLANDS vs CANADA

SOUTH PITCH	
10:00	INDIA vs SPAIN
12:15	GERMANY vs GREAT BRITAIN

WEDNESDAY 29 JULY

NORTH PITCH	
20:45	JAPAN vs SPAIN

SOUTH PITCH	
21:15	AUSTRALIA vs NEW ZEALAND

THURSDAY 30 JULY

NORTH PITCH	
9:30	INDIA vs ARGENTINA
11:45	SOUTH AFRICA vs GERMANY

SOUTH PITCH	
10:00	BELGIUM vs CANADA
12:15	NETHERLANDS vs GREAT BRITAIN

FRIDAY 31 JULY

NORTH PITCH	
18:30	JAPAN vs INDIA
20:45	GERMANY vs NETHERLANDS

SOUTH PITCH	
10:00	AUSTRALIA vs SPAIN
12:15	CANADA vs SOUTH AFRICA
19:00	ARGENTINA vs NEW ZEALAND
21:15	BELGIUM vs GREAT BRITAIN

SUNDAY 2 AUGUST

9:30	QUARTER-FINAL
12:00	QUARTER-FINAL
18:30	QUARTER-FINAL
21:00	QUARTER-FINAL

TUESDAY 4 AUGUST

10:30	SEMI-FINAL
19:00	SEMI-FINAL

THURSDAY 6 AUGUST

10:30	BRONZE MEDAL
19:00	GOLD MEDAL



NOTES
 FIH, IOC and TOCOG reserve the right to amend the match schedule for any reason.
 Quarter-Finals: The sequence of matches will be advised after the completion of the pool phase.
 Semi-Finals: The sequence of matches will be advised after the completion of the Quarter-Finals.

POOLS

POOL A	POOL B
AUSTRALIA	BELGIUM
ARGENTINA	NETHERLANDS
INDIA	GERMANY
SPAIN	GREAT BRITAIN
NEW ZEALAND	CANADA
JAPAN	SOUTH AFRICA



HOCKEY WOMEN'S SCHEDULE



SATURDAY 25 JULY

NORTH PITCH	
20:45	NETHERLANDS vs INDIA

SOUTH PITCH	
21:15	IRELAND vs SOUTH AFRICA

SUNDAY 26 JULY

NORTH PITCH	
9:30	GREAT BRITAIN vs GERMANY
11:45	JAPAN vs CHINA

SOUTH PITCH	
10:00	AUSTRALIA vs SPAIN
12:15	NEW ZEALAND vs ARGENTINA

MONDAY 27 JULY

NORTH PITCH	
18:30	SOUTH AFRICA vs GREAT BRITAIN
20:45	JAPAN vs NEW ZEALAND

SOUTH PITCH	
10:00	NETHERLANDS vs IRELAND
12:15	AUSTRALIA vs CHINA
19:00	ARGENTINA vs SPAIN
21:15	GERMANY vs INDIA

WEDNESDAY 29 JULY

NORTH PITCH	
9:30	NETHERLANDS vs SOUTH AFRICA
11:45	NEW ZEALAND vs SPAIN
18:30	JAPAN vs AUSTRALIA

SOUTH PITCH	
10:00	GREAT BRITAIN vs INDIA
12:15	GERMANY vs IRELAND
19:00	ARGENTINA vs CHINA

THURSDAY 30 JULY

NORTH PITCH	
18:30	SPAIN vs CHINA

SOUTH PITCH	
20:45	JAPAN vs ARGENTINA

FRIDAY 31 JULY

NORTH PITCH	
9:30	SOUTH AFRICA vs GERMANY
11:45	IRELAND vs INDIA

SOUTH PITCH	
19:00	GREAT BRITAIN vs NETHERLANDS
21:15	NEW ZEALAND vs AUSTRALIA

SATURDAY 1 AUGUST

NORTH PITCH	
9:30	CHINA vs NEW ZEALAND
11:45	ARGENTINA vs AUSTRALIA

SOUTH PITCH	
18:30	GERMANY vs NETHERLANDS
20:45	IRELAND vs GREAT BRITAIN

SOUTH PITCH	
10:00	JAPAN vs SPAIN
12:15	INDIA vs SOUTH AFRICA

MONDAY 3 AUGUST

9:30	QUARTER-FINAL
12:00	QUARTER-FINAL
18:30	QUARTER-FINAL
21:00	QUARTER-FINAL

WEDNESDAY 5 AUGUST

10:30	SEMI-FINAL
19:00	SEMI-FINAL

FRIDAY 7 AUGUST

10:30	BRONZE MEDAL
19:00	GOLD MEDAL



NOTES
 FIH, IOC and TOCOG reserve the right to amend the match schedule for any reason.
 Quarter-Finals: The sequence of matches will be advised after the completion of the pool phase.
 Semi-Finals: The sequence of matches will be advised after the completion of the Quarter-Finals.

POOLS

POOL A	POOL B
NETHERLANDS	AUSTRALIA
GERMANY	ARGENTINA
GREAT BRITAIN	NEW ZEALAND
IRELAND	SPAIN
INDIA	CHINA
SOUTH AFRICA	JAPAN

公益社団法人 日本ホッケー協会 技術委員会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号

Japan Sport Olympic Square

TEL 03-6812-9200 FAX 03-6812-9210

<http://www.hockey.or.jp>

